授業実践例　　第１学年　生活科

１　単元名　「たのしいあき、いっぱい」

２　本時のねらい

○　公園で拾った落ち葉や実、木の枝などの特徴を生かしながら、自分の作りたいものを自分なりに工夫して作ることができる。

３　活動の流れ

学習内容	時間(分)	分担	○ 教 師 の 支 援　　※ 評 価
１　童里夢公園の秋をみつけよう。 あきのたからものをつかって、まつぼっくりツリーやどんぐりストラップを作ろう。	１０	担任 G・T	○　今までの学習を振り返らせ、本時のねらいを確認する。 ○　落ち葉や木の実を拾って、作品作りに使うことを伝える。 ○　G・Tを紹介する。 ○　観察や作品作りのねらいについて説明する。
２　G・Tの案内で童里夢公園を散策し、落ち葉や木の実を集める。	１５	G・T 担任	○　G・Tの案内により、公園内を歩きながら、樹木や草の観察を行う。 ○　木々の色づきや落ち葉、木の実などが落ちていることから、秋になったことに気づかせる。 ※　あきのたからものを見つけ、集めることができたか。
３　拾った落ち葉や木の実、G・Tが準備した木の実や枝を使って、松ぼっくりツリーやどんぐりストラップ作りをする。	４５	担任 G・T G・T 担任 担任 担任	○　あらかじめ決めておいたグループに分かれて作業することを確認する。 ○　制作するのに必要な材料や、用具が置いてある場所を知らせるとともに、スムーズに進められるよう活動場所と安全面での注意事項を確認する。 ○　松ぼっくりツリーとどんぐりストラップの作り方の説明をする。 ○　集めた落ち葉や木の実を使って工夫して作るようアドバイスする。 ○　思うように進まない児童には、参考作品を提示し、具体的にイメージできるよう個別に支援する。 ※　松ぼっくりツリーやどんぐりストラップを工夫して作ることができたか。
４　作った作品を紹介し合う。	１０	担任	○　作品を作る際に工夫した点について、グループの中で発表させる。また、友だちの作品のよい点について称賛できるよう声をかける。
５　後片付けをし、本時のまとめをする。	１０	担任 G・T	○　使った場所や用具を協力して片づけるよう声をかける。 ○　あきのたからものを見つけ、それらを使って作品作りをすることを通して、自然への関心を高めるとともに、秋を体感する喜びに気づかせる。

第１学年２組　生活科 学習指導案

日　時：２９年１１月２日（木）　第２校時
場　所：第１学年２組教室
指導者：Ｔ１（授業者）教諭　渡部　優里
　　Ｔ２（指導者）NPO福島県森の案内人の会
　　相双地区支部支部長　柴田　　猛

１　単元名　おもちゃをつくろう

２　本時のねらい
木工クラフトの活動をとおして木材の温かみを感じとらせることで、自然物のよさを味わいながら自分の思いを表現することができる。

３　学習過程

段階	学習活動・内容	時間	○　指導上の留意点　評価
導入	1　学習課題を知り、本時のめあてをつかむ。 (1)　参考作品を見て、木工クラフトについて知り、作りたいもののイメージをふくらませる。 (2)　指導者の紹介を聞く。 (3)　本時のめあてをつかむ。 ㋮木やドングリでかざりをつくろう。	7	○　昨年度の１年生がつくった作品や、指導者がつくった作品を提示し「こんなものをつくってみたい」という思いをもたせ、イメージを広げる。その際、自由な発想を妨げないよう、作品はあくまで例示であることを伝える。(T1) ○　担任が指導者を紹介するとともに、指導者が自己紹介をする。指導者の「森の案内人」という活動にもふれ、自然への興味を高める。(T1・T2)
展開	2　木工クラフトの手順について知る。 (1)　木材の性質について。 (2)　用具の扱いについて。	8	○　木工クラフトの指導はＴ２が主として行い、Ｔ１はＴ２の補助及び、児童の個別支援に当たる。 ○　木材は可塑性に富むこと、ふれたときに温もりを感じること、自然が育んでいることを伝える。(T2) ○　カッターや紙やすりなど、用具の安全な使用法について指導する。(T2)
	3　作品づくりをする。 (1)　木材を磨く。 (2)　デザインを工夫する。 (3)　貼り付けて仕上げる。	２２	○　土台となる木材の可塑性や温かみを感じ取らせながら、紙やすりをかけさせる。(T2) ○　土台となる木材にドングリや模様などをボンドで固定する前に、配置を考えさせ、つくりたいもののイメージを広げさせる。(T2) ○　イメージどおりの配置ができたら速乾性木工ボンドで貼り付けさせる。その際、薄くつけることがポイントであることを押さえる。(T2) 自分の思いをふくらませながら、木工クラフトをすることができたか。(観察)
終末	4　木工クラフトの作品を鑑賞し、学習のまとめをする。 (1)　できた作品を鑑賞し合う。 (2)　木材のよさについてまとめる。 (3)　指導者にお礼を述べる。	8	○　できた作品を机上に飾り、自由に鑑賞し合わせる。その後、友達の作品のよさについて話し合わせる。(T1) ○　木材の温かみや自然の大切さについて授業者が児童に知らせる。(T1) ○　児童数名に木工クラフトの感想とともに、指導者へのお礼を述べさせる(T1)。

校外学習指導計画（第1学年）

白河市立釜子小学校

校長	教頭	教務

教科名　生活科
単元名　たのしいあきいっぱい
つくろうあそぼう

日時	１０月４日（水）　午前９時４０分出発　１４時００分帰校

校外指導場所	参加人員
南湖森林公園	１年１組　在籍　１９名、不参加　０名 １年２組　在籍　１９名、不参加　０名

引率者印		
氏名	森　明美　印	鈴木　民子　印
	大金　正太　印	印

ねらい	○　森林公園で、自然の素材を組み合わせて、楽しいクラフトを作り、自然に親しむことができる。
経路及び時刻	学校発　９：４０　→　森林公園（昼食含）　１０：３０～１３：３０　→　学校着　１４：００ 森林公園管理棟：２７－１１０１
指導上の留意点	○　公共の場所や物を大切にできるように指導する。 ○　周りの人に迷惑をかけないように考えて行動できるように指導する。 ○　クラフト制作中のけがに気を付けさせる。 ○　安全にバスに乗ることができるように指導する。

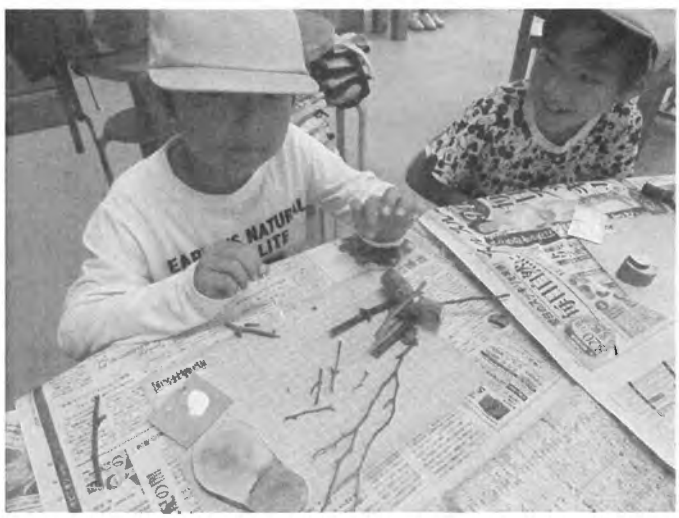
利用交通機関	一人あたりの経費	学校以外の指導者名	持参物
市バス	３００円	森林公園講師２名	＜教師＞ 救急バック　カメラ 携帯電話　上履き お弁当・飲み物 ＜児童＞ お弁当・飲み物 上履き、買い物袋

実施後の反省	10:30～11:00　自然観察 11:00～12:30　クラフト（片付け含） 12:30～13:15　昼食	無理のない活動ができた。 講師の方も、ていねいに指導していただいた。 トイレや水道も問題なし。

【活動状況の写真】②　　釜子小　第１学年　H29.10.4

○南湖森林公園での自然観察の様子

○管理棟でのネイチャークラフト制作活動の様子



表郷小学校　第１学年　生活科　「くさばなやむしをさがそう」

活動日時：平成２９年６月２日（金）

活動場所：南湖森林公園

活動の流れ

１．森の植物や生き物について、案内人の方に説明してもらいながら、公園内を散策する。
- 草や木の名前の由来や、形の特徴などを知る。
- 公園内に生息する生き物について、写真を交えて説明してもらう。

２．ネイチャークラフトの作り方を説明してもらい、木の形を生かして作りたいものをつくる。
- 適当な大きさの木から、自分で好きな形の木ぎれを選び、組み合わせてみる。
- 案内人の方にグルーガン（接着剤）で、木と木を接着してもらう。
- 好きな飾りをつけて、仕上げる。

時　刻	児　　童	担任	支援員
８：１５	朝の会 健康観察	・体調のチェック ・服装チェック	・バス用のバケツ準備 ・救急バック
８：２５	準　　備	◎運動着袋 ・弁当・水筒　・お手ふき ・シート・ハンカチ・ちり紙 ◎手提げバック ・ビニール袋・箱	・着替え袋 ・代替食（段ボール） ※　すべて職員室に準備してあるのでバスに載せる。
８：４０	体育館入り口集合、ＳＢ乗車	・心構え指導 教頭先生へあいさつ	
５０	発車	・男女で座らせる。男の子窓際	
９：１０～	施設着 担当の方との挨拶 自然散策	・施設まで行く。 ・トイレを使わせて頂く。 ・案内人の方のお話をよく聞くよう指導する。	・トイレ指導 ・カメラによる記録。
１０：２５ ～ １１：２５	ネイチャー クラフト	・作品として持ち帰ることができるように指導する。 ・作品は箱、ビニール袋に入れ、手提げバックに入れさせる。	・子ども達のテーブルに入って、一緒に作る。
１１：２５ ～ １２：１０	施設の周りで昼食、代替食 ごちそうさまとゴミ拾い	・ゴミやトイレのチェック。 ・全員でゴミ拾いをさせる。	・一人で食べる児童がいないように確認
１２：１０ ～	遊び	・一人遊びはさせない。複数での活動を指示する。	・一人の児童に声をかけて、複数で遊ぶように支援する。
１３：１０	トイレ ＳＢ乗車	・トイレの最終確認	
１３：２５ ～ １３：４５	発車	・男女で座らせる。女の子窓際 ・教頭先生にあいさつ。 ・下校準備	
１３：５０	教室に入る トイレ 下校準備 帰りの会	・着替え ・運動着・シューズ・紅白帽子 ・歯ブラシ、コップ持ち帰り ・宿題・お便り・時間割配付	・無事下校できるよう支援する。
１４：０５	下校		

1年

第１学年　生活科指導案

日　時　　平成２８年９月５日　２校時
場　所　　１年教室
指導者

本時の授業テーマ
　個々の思いや気づきを比較しながら話し合いをすることを通して、新たな思いを持って次の体験活動につなげることができる授業

１　単元名　　いきものとなかよし

２　単元目標

（１）　身の回りにいる虫などの生き物に関心をもち、それらを探して捕まえたり、それらの餌やすみかを意識して、大切に飼育したりしようとしている。　（生活への関心・意欲・態度）
（２）　虫などの生き物が育つ場所について考えながら探したり、生き物のために、餌やすみかを工夫して飼育したりして、それを素直に表現している。　（活動や体験についての思考・表現）
（３）　動きや餌といった生き物の特徴や、生き物の育つ場所に気付くとともに、生き物への親しみが増した自分や友達のよさに気付いている。　（身近な環境や自分についての気付き）

３　児童の実態（男子３名　女子７名　計１０名）

　入学してからこれまで、生活科の学習は楽しんで行うことができている。しかしながら、育ちの中での経験等の違いから、ものに対するかかわり方に個人差が見られる。なかでも、自然とのかかわりについては個人差が大きく、虫などの生き物に関しては、嫌悪感をはっきりと示す児童もいた。５月に行ったアンケートでは、「自然が好き」と答えた児童は２名しかおらず、「地域・自然についてよいと思うことある」と答えた児童は３名であった。そのような実態であっても、福島虫の会会長　　と学校及びその周辺を散策し、植物の観察をすると、いろいろな自然物を手に取ったり、意欲的に話を聞いたりする姿が見られた。このような姿から、かかわりを多く持てば、親しみを感じることができるようになることも期待できると思われる。
　気づきを表現することについては、できるようになってはきているが、教師と対話をしながら進めるなどの支援を要する児童もいる。交流の場も設けるようにはしているが、まだ一方的な発表にとどまっている段階である。

４　単元について

　本単元では、身近な生き物を探したり飼ったりして、生息環境や変化、成長、命の大切さに気づき、適切な世話ができるように考え、大切にすることができることをねらいとしている。日常生活において、自然とのかかわりが少なくなっている児童も、身近な活動の場である校庭で虫を見つけることで、今後の積極的なかかわりが期待でき、継続して飼育することで興味・関心を持つことや親しみや責任感、命の尊さを感じさせることもできる題材である。好き嫌いや生き物への接し方に個人差が出る学習でもあるが、それにより、児童同士のかかわり合いも必然的に生まれることが考えられ、気づきの質を高めてる一助となるであろう。また、命の尊さを身をもって感じる出来事に直面することも予想され、その尊さを悲しさやつらさから、自分の生き物へのかかわり方を学ぶ機会も得られる単元である。
　指導にあたっては、身近に豊かな自然があることのよさを感じることができるよう、虫にかかわる機会を多く設けたり、継続的に飼育したりするようにしていきたい。福島虫の会会長の小林先生との自然散策も単元に位置づけ、自然とかかわるよさを感じることのできる一助とし、苦手な児童も、「飼ってみよう！」という思いを持つことができるようにしていきたい。また、ただ単に体験活動を繰り返すのではなく、話し合いや交流、発表などの表現活動を適切に位置づけながら体験活動を繰り返し、気づきの質や体験の質が高まっていくようにする。話し合いの際には、気づきの違いを可視化することで、児童に比べさせ、新たな思いをもったり、気づきを高めたりすることができるようにしていく。そのコーディネートの際に、児童の気づきを適切に価値付けしていくことができるよう、目指す児童の姿を明確にした見取りをしていきたい。見取る際には、児童の活動の様子を観察するだけでなく、適切に見取ることができるよう、付箋への記録を行ったり、デジカメを活用したりしていきたい。また、生活科シートや授業の最後に記入する振り返りカードも見取る材料としていきたい。

５　活動を通して期待したい児童の姿

（１）　虫に繰り返しかかわることにより、親しみを持ち、大切にしようとすることができる児童。「かかわり力」
（２）　虫や自分についての気づきや思いをもとに、世話の仕方や虫へのかかわり方を考え、飼育することができる児童。「主体力」
（３）　虫に繰り返しかかわることで、虫や自分への気づきを深めるとともに、互いの気づきを比較し話し合うことで、新たな思いや気づきを持つことができる児童。「つっこみ力」「主体力」

６　本単元で特に工夫したい手だて

【手だて１】　気づきの質や体験の質を高めることができるよう、話し合いや交流、発表などの表現活動を適切に位置づけながら体験活動を繰り返すようにする。

【手だて２】　身近にある自然のよさを感じることができるよう、虫にかかわる機会を多く設けたり、継続的に飼育をしたりする。また、福島虫の会会長　　との活動の活用も図っていくようにする。

【手だて３】　適切に価値付けをすることができるよう、つけたい力を明確にし、単元を通して見取っていくようにする。

７　本時で特に工夫したい手だて

【手だて１－（１）】　これまでの虫に対する思いを基に、本時のめあてに対するそれぞれの考えを比べることで、新たな思いを話し合いにより持てるようにする。

【手だて１－（２）】　前時までの児童の学びの様子を見取っておき、話し合いのコーディネートに生かしていくことで、「虫を飼ってみよう」という思いが持てるようにしていく。

【手だて２】　　の話を聞くことで、身近にある自然のよさや自然を知ることのよさを感じることができるようにしていく。

【手だて３】　虫のよさを伝えようとする姿や発言、友達の意見のよさを感じている姿や思いの変化等を見取り、価値付けしていく。

８　本時のめあて

虫ともっとかかわりたいという思いをもったり、表現したりすることができる。

校長	教頭	教務	引率者 職 氏名	教　諭　岡本　希江子 講　師　湯田　由起子 養護教諭　小野　美　喜 支援員　渡部　美紀子

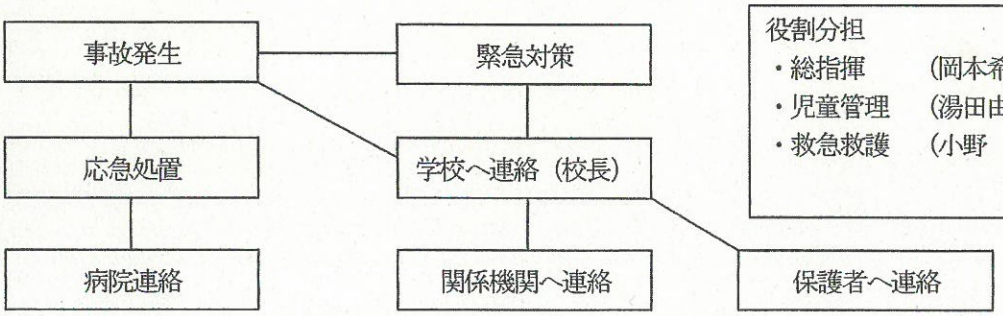
平成29年度『明和発見タイム』(総合・生活)実施計画

学　年	第1・2学年	1年　男6名　女3名　計　9名 2年　男5名　女6名　計11名 計20名	不参加児童	なし
実施期日	平成29年6月27日（火）（出発時刻8：30　～　帰校時刻11：50）　荒天29日			
目　的	(1)　児童の心身の発達に応じて、地域の美しい自然や文化に触れさせることによって、情操を豊かにし より多くの体験と見聞を広める。 (2)　集団行動を通して、規律の必要性や大切さを感じとらせ、道徳的実践力を伸ばす。			
目的地	恵みの森（布沢地区）　　案内人　渡部　和子さん　（森の分校　齋藤　政信さん86－2387）			
交通手段	スクールバス　　緊急車両（小野）			
経　費	講師謝礼　5，000円			
行　程	(往) 学校発（8：30）→　森の分校布沢トイレ（8：45）　→　恵みの森着（9：00） (復) 恵みの森発（10：40）→森の分校トイレ・河原遊び（10：50～11：30）→学校着（11：50）			
準備物	(教師) 携帯電話・緊急連絡網・救急バッグ・虫除けスプレー・デジタルカメラ			
持ち物	(児童) リュック、水筒、タオル、着替え、軍手、ナイロン袋、雨具（カッパ）、ハンカチ、チリ紙、 虫除けスプレー ＜服装＞長袖・長ズボンの運動着、紅白帽子、長靴			

※昨年と同じ場所まで行く予定です。

	事　前	実施中	事　後
指導計画	1　活動の目的や目的地、活動内　容、約束事を理解させる。 2　安全指導を徹底する。 (1)バスの乗り降りや歩行の仕方 (2)危険箇所の確認 (3)使用道具の確認 3　体調管理・健康観察を行い、体調を整えさせる。 4　集団行動のきまりを指導する。	1　事前指導の内容が体験を通して指導できるようにする (1)あいさつ (2)バスの利用や歩行の仕方 (3)持ち物の整理整頓、後始末、ゴミの持ち帰り (4)集団行動のきまり 2　自然や文化に触れ、豊かな体験と見聞を広める。 (1)自然に親しむ。 (2)担当の方の話を聞く。	1　一人一人に振り返りをさせる。 2　心に残ったことを絵や作文に表現させる。 3　活動で体験したことを学校生活や他教科に生かせるようにする。

事故発生時の連絡体制



役割分担
- 総指揮　（岡本希江子）
- 児童管理　（湯田由起子）
- 救急救護　（小野　美喜）

連絡先　明和小学校　0241－86－2216

携帯番号

備考	不参加児童の取扱い　不参加者なし やまびこ学級2年児童は、担任の計画により活動する。

１．２学年　「恵みの森」散策

平成２９年度森林環境学習指導計画

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

学習内容	指導上の留意点
1　秋の森やそこでの遊びについての経験を発表しどんな遊びをするか話し合う。	○経験を出し合わせ、季節の移り変わりにも気づかせる。
2 秋や夏との違いについて調べる。	○同じ森林で撮った写真を準備しておく。
3　森林で遊んだり散策したりする。	○楽しく遊ぶためのルールを確認させる。
4　遊んで楽しかったことや散策して気づいたことを発表する。	○全体で感想の交流をし自然に触れる喜びを共感できるようにする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

学習内容	指導上の留意点
1　森林が無いと困ることを話し合う。	○今までの学習を図や写真で振りかえさせる。
2　森林荒廃の現状を森の案内人から聞く。	○酸性雨や虫食い、手入れされていない森林の写真から現状を見つめさせる。
3　森林を守っていくためにはどうすればよいか話し合う。	○自分たちにできることを中心に考えさせる。
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

学習内容	指導上の留意点
1　森林の生物が自然環境にどのように関わって生きているか話し合う。	○これまで理科で学習した内容を振りかえさせる。
2　実際に観察をする。	○落ち葉の下などにも注目させる。
3　森林環境を守る取り組みについて知る。	○動植物の保護や樹木の植林・間伐などについて理解が深められるようにする
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

平成２８年度森林環境学習実践資料

小野町立浮金小学校

1　実施学年　１～６年

2　教科・単元名・ねらい

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

3　実施時期　平成２８年１１月８日（火）

4　学習の実際

３・４年の学習の様子

①森林の役割について学習し、森林を健全に維持する方法について理解が深まった。

１２年生の学習の様子

②森を散策し季節が変わったことに気づき秋の遊びについて考えることができた。

５・６年生の学習の様子

③森林の生物が自然環境とどのように関わって生きているか実際に観察することができた。

木登り体験の様子

④実際にツリークライミングを体験し森林が持つ自然の壮大さを肌で感じ取ることができた。

第２学年生活科学習指導案

玉川村立須釜小学校

1　単元名　　学校のまわりの自然を観察しよう

2　本時のねらい

学校周辺の自然の観察をとおして，植物や昆虫などの生き物に興味をもつことができる。

3　活動の流れ

学習活動・内容	時間	分担	教師の支援　※　評価
1　本時のめあてを確認する。 学校のまわりの植物や生き物を調べよう	１０	担任 外部講師	○　活動内容や活動場所について説明し，安全のための注意を促す。 ○　この時期にいそうな虫の話や咲いている花等について話し，児童の興味関心を高める。
2　観察をする。 ・　木の名前を当てる。 ・　昆虫を捕まえる。	６０	担任 外部講師 外部講師	○　必要に応じてメモやイラストなどの記録をとらせる。 ○　児童が見つけた草木や昆虫などについて説明をする。 ○　児童が見つけにくいものについて紹介する。
3　見つけた自然を発表する。	１５	担任	○　児童が見つけた草木や昆虫などを発表させる。 学校の周りの植物や虫を見つけ，生き物に興味をもつことができたか。 （ワークシート，観察）
4　本時の学習を振り返り，気付いたことや感想を発表する。	5	担任 外部講師	○　本時の学習をとおして気付いたことを発表させ，季節による自然の変化について話をする。 ○　自然を守るためにたくさんの人が関わっていることやこうした活動の大切さについて話をする。

平成２９年度　第２学年　森林環境学習

白河市立表郷小学校

１　活 動 名　　森となかよくなろう

２　ね ら い

（１）　森林探索で動植物にふれることで、身近なところ生息する特徴ある植物や昆虫などがいることに気付き、親しむことができる。

（２）　採集した木の実や枝、木片などを用いて思い思いの作品を作り、楽しむことができる。

３　実施期日　　平成２９年９月２９日（金）　９：１０　～　１２：１０

４　実施学年　　第２学年　５８名

５　活動内容

活　動　内　容	時間	○教師の支援（□案内人）　※評価
１　活動についての説明 （１）森林公園内の探索について （２）木工作りについて （３）草すべりについて ［トイレ休憩後出発］	１５分	□　森の案内人の方からの説明を聞く。 ○　案内人の方の説明を補足して伝える。 □　ハチやヘビに遭遇したときの対処の仕方、安全に活動することについて確認する。
２　森林公園内の探索 （１）森林公園内の植物について ・栗やドングリについて ・さまざまな木の実について ・クロモジ、大文字について ・衣服につく植物について ・エノキとオオムラサキについて ・その他の植物について （２）公園から見える市内の様子について ［トイレ休憩］	６０	○　クラスごとに活動する。 □　さまざまな草木、木の実などについて説明する。 ○　子どもたちに分かるように補足したり安全に注意して活動できるようにする。 ※　森林公園内のさまざまな草木に興味を持って観察したり採集したりすることができたか。
３　木工作り （１）材料や用具についての説明を聞く。 （２）木工作り ・後片付け	８０	□　安全に注意して用具を使うこと、　一人分のおおよその分量について説明を聞き、準備する。 ○　安全に留意して活動させる。 ○　イメージが持てない子どもには、作品例を参考にしたり、材料の組み合わせを一緒に考えたりして、取り組ませる。 ○　用具や材料を協力して片付けさせる。 ※　採集した木の実や枝、木片などを用いて思い思いの作品を作り、楽しむことができたか。
４　活動の振り返り	１０	□　さまざまな樹木に親しむさまざまな活動を通して、森林を大切にすることについての話を聞く。

2年

校外学習指導記録（第2学年）

白河市立釜子小学校

校長	教頭	教務

教科名　生活科
単元名　森林公園へ行こう

日時	９月２８日（金）　８時２０分出発　～　１４時３０分　帰校
校外指導場所	新白河駅 南湖森林公園
参加人員	２年　在籍　２８名、不参加　０名

引率者	氏名印			
	小針　弘美	印	高原　政勝	印
		印		印

ねらい

○　電車や新幹線や駅に関心を持ち、見学したり、質問をしたりすることによって、理解を深め、親しみを持つことができる。

○　森林公園で自然観察をしたり、管理棟で、自然素材を組み合わせた作品を作ったりして、自然に親しむことができる。

経路及び時刻

学校発 ８：２０ → 矢吹駅 ８：５０ → 矢吹駅発 ９：２６ → 新白河駅着見学 ９：４３ → 新白河駅発 １１：００

→ 森林公園着（昼食） １１：１５ → 森林公園発 １４：００ → 学校着 １４：３０

指導上の留意点

○　電車の乗り降りや駅の見学では、安全に気を付けて行動したり、見学・質問したりするようにする。

○　電車の中や駅の見学時には、周りの人の迷惑にならないように気を付けさせる。

○　森林公園では、自然観察や作品制作中のけがに注意し、きれいに片付けをして帰るようにする。

利用交通機関	一人あたりの経費	学校以外の指導者名	持参物
JR東北本線	１６０円 （矢吹駅～新白河駅）	森林公園講師 2名	携帯電話 カメラ 救急セット

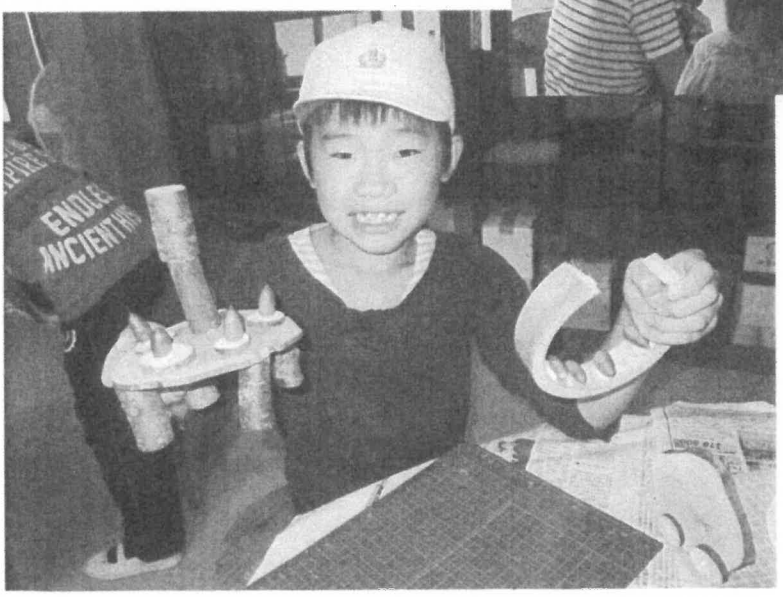
実施後の反省

・初めて電車に乗った子もいたし、電車に乗ることがめずらしかったためか、音やトンネルでとても驚いていた。静かに乗っているのが困難な子が5～6名いた。新白河駅では、しっかりメモし、質問できていた。

・森林公園では南湖神社までしかバスが行けなかったため、1kmの弱の坂道を歩いた。雨のため、クラフトのみとなった。

【活動状況の写真】①　　釜子小　第２学年　H29.9.28

○管理棟でのネイチャークラフト
制作活動の様子



第２学年　森林環境学習指導案

白河第二小学校
平成２９年６月３０日

1　単元名　　木工クラフトを作ろう　（生活科）

2　本時のねらい
　いろいろな木工の材料を利用して、木工クラフトの作品を作成することができる。

3　学習過程

学　習　活　動　・　内　容	時間	○活　動　上　の　支　援　※評　価
1　本時の学習内容をとらえる。 いろいろな木のざいりょうをつかって楽しい作品を作ろう。	５分	○　南湖森林公園より５名の講師の先生に来ていただき、指導をしていただく。 ○　材料の選び方や作り方の説明を講師の方にしていただく。 ○　材料などを考えながらどんな作品がいいか考える。 ・動物や植物、ネームプレートなど
2　木の材料を選んで作品作りをする。 (1)木の板や枝、木の実などから自分の作品に必要な材料を集める。	３０	○　たくさんの材料の中から、作品作りに必要な材料を選ぶようにする。
(2)講師の方々のアドバイスなどを受けながら作品を制作する。		○　材料を切ったり、穴を空けたりたりしながら作品の制作を行う。難しい作業は講師の方や教師の協力を得て行うようにする。 ※　材料を工夫して、作品を作ることができたか。
3　学習のまとめをする。 (1)本時の活動の感想を発表する。	１０	○　友達の作品を鑑賞したり、工夫を話し合ったりして学習のまとめをする。 ○　学級の代表が感想発表を全体の場で行うようにする。

森林と遊ぶ

森林の木工クラフト

小枝で作るクラフト工作　第２学年（磐梯第一小学校）

関連教科等　生活科２年　図画工作科２年

学習のねらい

小枝などを利用した材料を使って，木のぬくもりを感じながら，クラフト工作を楽しむ。

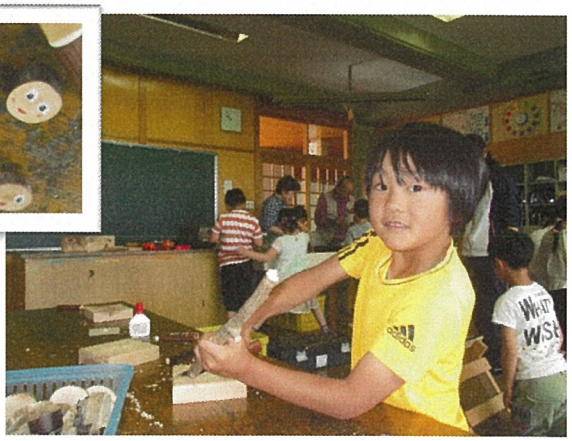
授業計画　６月：２時間（９０分）

・講師（森の案内人）から森林の樹木や枝，実等を使って工作を楽しむことができることの話を聞く。（１０分）
・木工クラフトの制作。（６５分）
・木工クラフト作品の鑑賞と活動の振り返り発表。（１５分）

学習活動

【枝を使って　楽しい工作ができますよ】
・枝をよく見て，何に見えるかな。
・枝を切って，組み合わせてもいいね。

【自分だけの作品を作ろう】



第３学年総合的な学習の時間指導案

白河市立表郷小学校第３学年

1　単元名　　自然の材料で作ろう

2　学習のねらい

○　自然豊かな森林に触れて、木や森の働きに興味・関心をもつことができる。

○　自然の材料を使って、木工クラフトの作品を作ることができる。

3　活動の流れ

学　習　内　容	時間	分担	○教師の支援　□評価
1　あいさつと講師紹介 ○ゲストティーチャー ○木工クラフトと草滑り	5 (分)	担任	○今日のゲストティーチャーを紹介し、予定を知らせる。
2　本時のめあてをつかむ。 材料を工夫して使い、木工クラフトの作品を作ろう		担任	○材料を知らせ、どんな作品を作りたいか見通しをもたせる。
3　木工クラフトを作る。 （1）材料を選び、作る。	７０	ＧＴ 担任 ＧＴ	○材料や道具の使い方について説明をする。特にホットボンドの安全な使い方について説明する。 ○作業の進み具合を観察しながら個別に支援する。 ○穴を開けたり、切ったりする作業をする。
（2）出来上がった作品を見せ合う。		担任	○友達の作品を見ることによって、友達のよさに気づかせる。 意欲的に作品を完成させることができたか。(観察)
（3）片づけとそうじをする。		担任 ＧＴ	○「使う前より美しくしよう」と働きかける。
4　草滑りをする。	２０	担任	○安全に気をつけて、楽しむことができるように支援する。
5　あいさつをする。	5	担任	○ＧＴへのあいさつをさせる。

猪苗代町立千里小学校

平成２９年　６月１２日

校　長	教　頭	教　務

校外学習実施計画

下記のとおり、校外学習を実施したいので、許可願います。

指導者　　高橋　咲良

記

1　教科・領域等　　総合的な学習の時間

2　単元名　　磐梯山とまわりの大地と自然について学ぼう

3　指導のねらい・内容など

②　学校の周りの地域や町の様子や特色のよさに関心を持ち、意欲的に調べながら追究する。

②計画・観察して、気づいたことをメモし、まとめ、地域や町の特徴や違いに気づく。

4　日時　　平成２９年　６月　１３日（火）第１～４校時

5　目的地　　表磐梯方面

6　日程・経路等

千代田方面		予定滞在時間
８：４０	学校発	
９：００	見祢の大石	３０分間
９：５０	天鏡台	４０分間
１０：３０	リゾートスキー場	３０分間
１１：２０	湖畔の森	４０分間
１２：０５	学校着	

7　移動方法　　バス

8　経費　　特になし

9　参加児童　　３年児童　２７名

１０　不参加児童名及び指導計画

氏名　　無　　指導内容・方法

１１　事務連絡の有無　　有（　　）　　無

３年　「磐梯山とまわりの大地と自然について学ぼう」

見祢　の大石

天鏡台

湖畔の森

平成２９年度　只見町立只見小学校　３学年　総合的な学習の時間

年間テーマ　「只見の森と四季」

１ 単元名　　夏の虫をみつけよう

２ 本時のねらい　　［平成２９年　７月５日（水）］

二ホンミツバチのくらしについて知り、森の中で生きている動物の知恵に興味・関心をもつことができる。

３ 活動の流れ

学習活動・内容	時間	分担	○教師の支援　　※評価
１「ハチ」について知っていることを話し合い、本時のねらいを知る。 ・ 刺されると痛い。命も危ない。 ・ 花の蜜を集めている。 ・ 巣を作って、くらしている。 二ホンミツバチは、どのようなハチかな？	5	担任	○　今までの生活体験などから自由に話をさせ、「ハチ(蜂)」に対する児童の思いや考えを把握する。 ○　本時は、「二ホンミツバチ」について学習することを知らせ、二ホンミツバチを飼っているゲストティーチャーを紹介する。
２　二ホンミツバチのくらしについて、話を聞く。 ①　スズメバチなどと違い、花の蜜を集めている蜂であることを知る。 ・エサは花のみつ ・体のつくり ・巣 ②　仕事を分担して、協力しながら社会生活を営んでいることを知る。 ・卵を産む女王バチ ・働きバチの仕事のいろいろと変化 ・１匹の働きバチが集める蜜の量 ③　只見の山の森の中での、二ホンミツバチのくらしの様子を知る。 ・巣別れする時の知恵 ＝ 次の場所について下見をする蜂がいる。その情報をもとに相談して次の巣をつくる場所を決めている。 ・スズメバチなどが襲ってきたら ＝ 敵の体にみんなで集まって羽ばたき、体温を上げることで倒す。	25	ＧＴ	○　巣箱や、スズメバチ、二ホンミツバチの標本など、実物を提示して説明する。 ○　攻撃してくる蜂と、そうではない蜂がいることを丁寧に説明する。 ○　資料を準備し、図や絵で分かりやすく説明する。 ○　身近な森の中で、人間が感心するような暮しぶりをしている二ホンミツバチの知恵を資料や写真などを使い、児童が分かるように伝える。
３　はじめて知ったこと、分かったことや疑問を話し合い、今後の見通しをもつ。 二ホンミツバチは、近くの森の中や身近な所で、すばらしいくらしをしている。 本物を見に行こう。	15	担任	○　「ハチ(蜂)」に対して初めに思っていたこととは変わった点について話すようにさせる。 ※　二ホンミツバチのくらしの知恵について自分なりに発表できたか。 ○　百花蜜を味わわせ、実際に見に行く意欲を高める。

第３学年総合的な学習の時間学習指導案

玉川村立須釜小学校

1　単元名　　さるなしの収穫体験をしよう

2　本時のねらい

村の特産物であるさるなしの収穫をとおして，自分の住んでいる村のよさや地元の産業について興味をもつことができる。

3　活動の流れ

学習活動・内容	時間	分担	教師の支援　※　評価
1　本時のめあてを確認する。 さるなしを収穫しよう	5	担　任	（バスによる移動後） ○　活動内容や活動場所について説明し，安全のための注意を促す。
2　さるなし生産農家の方の話を聞く。 ・　さるなしについて知る。 ・　栽培のしかたについて知る。	１０	外部講師 担　任 担　任	○　村の特産物であるさるなしについて説明する。 ○　必要に応じてメモやイラストなどの記録をとらせる。 ○　栽培のしかたについて児童からの質問を受け付ける。
3　さるなし収穫体験をする。	２０	外部講師 担　任	○　さるなし収穫の仕方を指示する。 ○　安全面に配慮し，作業の助言をする。 意欲的に収穫体験をし，村のよさや地元の産業について興味をもつことができたか。（観察，発表）
4　本時の学習を振り返り，気付いたことや感想を発表する。 ・　生産者の方の願いを知る。	１０	担　任 外部講師	○　本時の学習をとおして気付いたことを発表させる。 ○　村の自然を生かした産業について説明し，自然を守りながら自然とともに暮らしていくことの大切さを理解させる。

第３学年図画工作科学習指導案

玉川村立須釜小学校

１　単元名　　木材を使って木工細工をしよう

２　本時のねらい

間伐材を使って木工細工を作る体験をとおして，木や森を育てることや守ることの大切さについて関心をもつことができる。

３　活動の流れ

学習活動・内容	時間	分担	教師の支援　※　評価
１　本時のめあてを確認する。 間伐材を使って木工細工をしよう	１０	担任 外部講師	○　活動内容や活動場所について説明し，安全のための注意を促す。 ○　間伐について簡単に説明し，その必要性に気づかせる。
２　間伐材を使って木工細工をする。 ・　ペンダントを作る。 ・　飾りを作る。	６０	担任 外部講師	○　道具の安全な使い方について説明する。 ○　製作の仕方について説明する。
３　作った作品の鑑賞会をする。	１５	担任	○　製作した作品について児童に発表させ，お互いの感想を交換させる。 間伐材の特徴を生かして作品の製作し，木材や森について関心をもつことができたか。（作品，観察）
４　本時の学習を振り返り，気付いたことや感想を発表する。	５	担任 外部講師	○　本時の学習をとおして気付いたことを発表させる。 ○　自然を守るためにたくさんの人が関わっていることやこうした活動の大切さについて話をする。

森林を見る

木の葉っておもしろい

葉っぱでできることを探そう　第３学年（磐梯第一小学校）

関連教科等　理科３年　図画工作科３年　総合的な学習３年

学習のねらい

本校校地には緑化のシンボル「緑色の基地」や様々な樹木がある。これらの樹木を観察しながら，葉に注目し，身近な自然への親しみや興味を持つ。

授業計画　１０月：２時間（９０分）

・講師（森の案内人）の方から校地内の樹木について説明を聞き，フィールドワークをし，樹木の名前などを知る。（３０分）
・樹木の葉を観察する。（４５分）
　□くっつく葉（くっつけて遊ぼう）　□泡が出る葉（石鹸水づくり）
・樹木・葉の観察を振り返って感想を発表する。（１５分）

学習活動

【校地内フィールドワーク：樹木観察】

普段あまり見たことがなかったね。葉っぱを下から見てみよう。

実もついているね。どんな味かな？

【くっつく葉っぱ・石鹸水づくり】

甘い！！びっくり

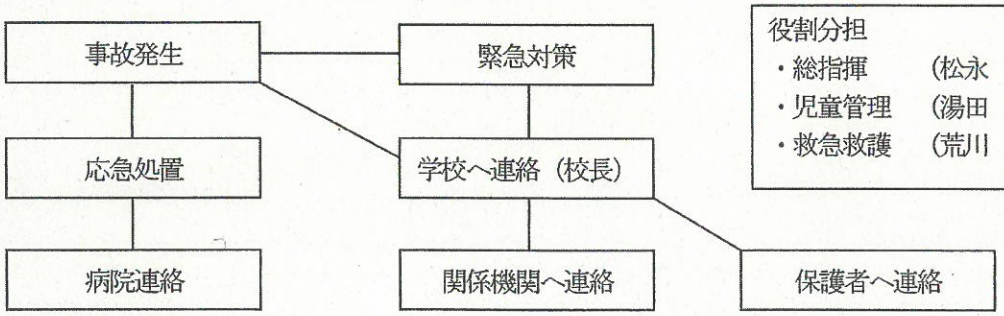
校長	教頭	教務	引率者 職 氏名	教　諭　荒川　信一 教　諭　松永　真紀 教　諭　湯田　由起子 支援員　五十嵐　妙

平成29年度『明和発見タイム』(総合・生活)実施計画

学　年	第3・4学年	3年　男4名　女7名　計11名 4年　男6名　女4名　計10名 計　22名	不参加児童	なし
実施期日	平成29年6月27日（火）（出発時刻8：30　～　帰校時刻11：30）　荒天29日（木）			
目　的	(1)　児童の心身の発達に応じて、地域の美しい自然や文化に触れさせることによって、情操を豊かにし より多くの体験と見聞を広める。 (2)　集団行動を通して、規律の必要性や大切さを感じとらせ、道徳的実践力を伸ばす。			
目的地	癒しの森（布沢地区）　　案内人　斎藤　政信さん（29日もOK）TEL　86－2387			
交通手段	スクールバス　　緊急車両（荒川　信一）			
経　費	講師謝礼　5，000円			
行　程	(往) 学校発（8：30）→　森の分校ふざわﾄｲﾚ（8：45）　→　癒しの森着（9：00） (復) 癒しの森発（11：00）→森の分校ふざわﾄｲﾚ（11：15）→　学校着（11：30）			
準備物	(教師) 携帯電話・緊急連絡網・救急バッグ・虫除けスプレー・デジタルカメラ			
持ち物	(児童) リュック、水筒、タオル、軍手、ナイロン袋、雨具（カッパ）、ハンカチ、チリ紙、 虫除けスプレー ＜服装＞長袖・長ズボンの運動着、紅白帽子、長靴			

	事　前	実　施　中	事　後
指導計画	1　活動の目的や目的地、活動内　容、約束事を理解させる。 2　安全指導を徹底する。 (1)バスの乗り降りや歩行の仕方 (2)危険箇所の確認 (3)使用道具の確認 3　体調管理・健康観察を行い、体調を整えさせる。 4　集団行動のきまりを指導する。	1　事前指導の内容が体験を通して指導できるようにする (1)あいさつ (2)バスの利用や歩行の仕方 (3)持ち物の整理整頓、後始末、ゴミの持ち帰り (4)集団行動のきまり 2　自然や文化に触れ、豊かな体験と見聞を広める。 (1)自然に親しむ。 (2)担当の方の話を聞く。	1　一人一人に振り返りをさせる。 2　心に残ったことを絵や作文に表現させる。 3　活動で体験したことを学校生活や他教科に生かせるようにする。

事故発生時の連絡体制



役割分担
・総指揮　　(松永　真紀)
・児童管理　(湯田　由起子)
・救急救護　(荒川　信一)

連絡先　明和小学校　0241－86－2216

備考	不参加児童の取扱い　不参加者なし やまびこ学級3年児童は、担任の計画により活動する。

３・４学年　「癒しの森」散策

冬の自然体験

スノーシューを使っての冬の森林散策（学習指導案）

授業計画例　冬の森を歩こう

1　**単元名**「冬の自然を体験しよう」

2　**本時のねらい**

○　スノーシューを使って冬の森に入り散策し，冬でも生きる動植物の観察をとおして，自然の雄大さ偉大さを感じるとともに，自然を守るために自分たちにできることを考える。

3　**活動の流れ**

学　習　内　容	時間	○支援　・配慮事項　□評価
1　学習のめあてを確認する。 冬の森を歩き，自然について考えよう。	5	○　本時の活動とねらい，「森の案内人」の存在を伝える。
2「森の案内人」の説明を聞く。	１５	○　教師は，「森の案内人」の紹介をする。 ・　専門用語等，児童が理解するのに難しいと判断した言葉については，補足説明を入れる。 ・　危険が伴うことも確実に知らせ，教師または案内人の話をしっかり聞くように指導する。 ・　スノーシューのつけ方，双眼鏡の使い方については，現物を持たせながら説明する
3　冬の自然散策をする。	５０	・　安全に踏破できるよう，適宜児童に声かけをする。 ○　動植物を発見した場合は，事前の調べ学習を想起させることで，学びをより深いものにする。 冬の自然の雄大さを感じることができる。（観察・つぶやき）
4　感じたことを話し合う。	１０	○　感動をダイレクトに伝えられるよう，児童から発せられた言葉を拾い上げる。 ・　自然の雄大さを感じることから，自然を守ることにつながるよう，話し合いをコーディネートする。
5　本時のまとめをする。	１０	○　見たり，感じたりした美しいふるさとの自然を守るために，自分たちにできることを考えさせる。 ・　案内人にお礼を言わせる。

平成２９年度森林環境学習指導計画

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

学習内容	指導上の留意点
1　秋の森やそこでの遊びについての経験を発表しどんな遊びをするか話し合う。	○経験を出し合わせ、季節の移り変わりにも気づかせる。
2 秋や夏との違いについて調べる。	○同じ森林で撮った写真を準備しておく。
3　森林で遊んだり散策したりする。	○楽しく遊ぶためのルールを確認させる。
4　遊んで楽しかったことや散策して気づいたことを発表する。	○全体で感想の交流をし自然に触れる喜びを共感できるようにする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

学習内容	指導上の留意点
1　森林が無いと困ることを話し合う。	○今までの学習を図や写真で振りかえさせる。
2　森林荒廃の現状を森の案内人から聞く。	○酸性雨や虫食い、手入れされていない森林の写真から現状を見つめさせる。
3　森林を守っていくためにはどうすればよいか話し合う。	○自分たちにできることを中心に考えさせる。
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

学習内容	指導上の留意点
1　森林の生物が自然環境にどのように関わって生きているか話し合う。	○これまで理科で学習した内容を振りかえさせる。
2　実際に観察をする。	○落ち葉の下などにも注目させる。
3　森林環境を守る取り組みについて知る。	○動植物の保護や樹木の植林・間伐などについて理解が深められるようにする
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

平成２８年度森林環境学習実践資料

小野町立浮金小学校

1　実施学年　１～６年

2　教科・単元名・ねらい

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

3　実施時期　平成２８年１１月８日（火）

4　学習の実際

３・４年の学習の様子

①森林の役割について学習し、森林を健全に維持する方法について理解が深まった。

１２年生の学習の様子

②森を散策し季節が変わったことに気づき秋の遊びについて考えることができた。

５・６年生の学習の様子

③森林の生物が自然環境とどのように関わって生きているか実際に観察することができた。

木登り体験の様子

④実際にツリークライミングを体験し森林が持つ自然の壮大さを肌で感じ取ることができた。

第４学年総合的な学習の時間指導案

白河市立表郷小学校第４学年

１　単元名　　自然の材料で作ろう

２　学習のねらい

○　自然豊かな森林に触れて、木や森の働きに興味・関心をもつことができる。

○　自然の材料を使って、木工クラフトの作品を作ることができる。

３　活動の流れ

学　習　内　容	時間	分担	○教師の支援　□評価
１　あいさつと講師紹介 ○ゲストティーチャー ○木工クラフトと草滑り	５ (分)	担任	○今日のゲストティーチャーを紹介し、予定を知らせる。
２　本時のめあてをつかむ。 材料を工夫して使い、木工クラフトの作品を作ろう		担任	○材料を知らせ、どんな作品を作りたいか見通しをもたせる。
３　木工クラフトを作る。 （１）材料を選び、作る。	７０	ＧＴ	○材料や道具の使い方について説明をする。特にホットボンドの安全な使い方について説明する。
		担任	○作業の進み具合を観察しながら個別に支援する。
		ＧＴ	○穴を開けたり、切ったりする作業をする。
（２）出来上がった作品を見せ合う。		担任	○友達の作品を見ることによって、友達のよさに気づかせる。 □意欲的に作品を完成させることができたか。(観察)
（３）片づけとそうじをする。		担任 ＧＴ	○「使う前より美しくしよう」と働きかける。
４　草滑りをする。	２０	担任	○安全に気をつけて、楽しむことができるように支援する。
５　あいさつをする。	５	担任	○ＧＴへのあいさつをさせる。

4年

第１回　森林・植物植物観察活動計画

小学校　第４学年
日時：平成２９年６月１２日(月)
9:45～12:15
場所：　　烏峠

◎　指導者　４年担任：
講師　　烏峠の自然を守る会　会員の皆様

１　事業の目的
○　ふるさと泉崎烏峠にある樹木や植物の観察を通して、新緑時期の自然のすばらしさを感じさせ、森林環境についての理解を深めさせる。

２　単元名　「森林学習」(総合的な学習の時間)　本時･･･４・５・６／１４時間

３　活動の内容
（１）　事前指導
樹木や植物の見分け方等について図鑑で調べ，村内にある樹木や植物につい関心を持たせる。また、季節の移り変わりによる自然の変化にも、理科等の学習で理解させておく。

（２）　当日の活動

時　間	活　動　内　容	場　所
９：４５	○バスにて学校出発	
１０：００	○烏峠到着。班に分かれ、ガイドの皆さんと登山開始。 ・烏峠に生息・自生する動植物について説明を聞いたり、自ら気づいたりする。 ・「里山図鑑」を参考に、調べながら観察する。	烏　峠
１１：３０	○ガイドの皆さんにあいさつをして下山する。	
１２：００	○バスに乗り、学校へ	
１２：１５	○学校到着	

（３）　事後指導
理科の学習等と関連を図る。

第２回　森林・植物植物観察活動計画

小学校第４学年

日時：平成29年11月6日(月)

９:４５～１２:１５

場所：　　烏峠

◎　指導者　４年担任：

講師　　烏峠の自然を守る会　会員の皆様

１　事業の目的

○　ふるさと泉崎烏峠にある樹木や植物の観察を通して、紅葉時期の自然のすばらしさを感じさせ、森林環境についての理解を深めさせる。

２　単元名　「森林学習」(総合的な学習の時間)　本時･･･11・12・13／１４時間

３　活動の内容

（１）　事前指導

樹木や植物の見分け方等について図鑑で調べ，村内にある樹木や植物について関心を持たせる。また、季節の移り変わりによる自然の変化にも、理科等の学習で理解させておく。

（２）　当日の活動

時　間	活　動　内　容	場　所
９：４５	○バスにて学校出発	
１０：００	○烏峠到着。班に分かれ、ガイドの皆さんと登山開始。 ・烏峠に生息・自生する動植物について、新緑時期との違いについて説明を聞いたり、自ら気づいたりする。 ・「里山図鑑」を参考に、調べながら観察する。	烏　峠
１２：３０	○ガイドの皆さんにあいさつをして下山する。	
１２：００	○バスに乗り、学校へ	
１２：１５	○学校到着	

（３）　事後指導

理科の学習等と関連を図る。また、「烏峠自然を守る会」の皆様に、感謝の気持ちを伝える。

烏峠自然観察会

平成２９年６月１２日（月）2・3・4 校時（　　烏峠）

小学校　第４学年

森林環境学習実施計画

小学校４学年

１　ねらい

（１）学区内に残された里山や史跡の散策，自然物を材料とした造形的学習などの望ましい学習経験を得させるとともに，外部講師からの指導を通して，地域の自然や歴史に対する愛護の精神や自分たちが住む地域を愛する気持ちを養う。

（２）豊かな自然の中での野外活動等を通じ，児童の健康増進を図り，心身の鍛練に努めるとともに忍耐心や協調の精神を育成する。

２　テーマ

ふるさとの里山を巡る　～北山漆薬師如来，その歴史と鎮守の森の動植物～

３　フィールド

北山薬師如来周辺

４　実施日

平成２９年１０月２０日（金）　※　雨天決行

５　参加者

（１）児　童：４年生１５名

（２）引率者：校長，　　，

（３）指導者：真言宗松音寺住職　　様

森の案内人　　様

５　日程

○　８：４０～　８：５０　村バスで北山薬師如来まで移動

○　９：００～　９：２０　北山薬師如来に関するお話（講師：　　様）

○　９：２０～１０：３０　薬師の森の自然散策（案内：　　様）

○１０：３０～１１：００　徒歩で　　小学校へもどる

※　雨天時は村バスで移動

６　服装・持ち物

○　児童：長袖の運動着上下，雨具（レインコート類が望ましい），水筒，タオル，ティッシュ，探検バック，筆記用具，虫除けスプレー

○　引率：薬品，カメラ

７　事前・事後指導

○　事前指導（１時間）

・　日程，持ち物，注意事項の確認，班編制（４班）

○　事後指導（２時間程度）

・　礼状作成，歴史や動植物に関するまとめ等

８　その他

（１）時数は「総合的な学習の時間④」で計上する。

（２）講師謝金については、「森林環境学習」の予算をあてる。

森林の役割

授業実践例

猪苗代町立翁島小学校第４学年　（総合的な学習の時間）

１　単元名　森林の役割　（２時間扱い）※　活動６０分　移動時間３０分

２　本時のねらい

水源地や下流の水質調査を行うことで、森林がきれいな水を生み出していることを理解し森林を守る大切さに気づくことができる。

３　活動の流れ

学習活動	時間（分）	留意点
１.翁島小学校の水源（綿場の塘）の水がきれいな水であることを確認する。 ○水源の様子の観察 ○水の透視度の計測 ○パックテストの実施。 ○水生生物の採集。 めあて 水源の水は、猪苗代湖に流れ込むまでそのように変化していくか。	２０	○水を目視したり、触れたり、匂いをかいだり五感を通して、きれいな水であることを感じさせる。 ○地面から勢いよく水が湧き出ていることを確認させる。 ○水源の水は、雨や雪が森林に蓄えられ、長い時間をかけて地中から出てきた物であることを知らせる。 ○水質調査や水生生物の採集と観察を通して、水源の水が飲用に適したきれいな水であることを理解させる、 ○水質調査の方法については、全員に体験させ、理解させるようにする。 ○水生生物については、その判別とその生物がどういった水質に棲む生物か図鑑等を活用し理解させる。 ○もし、森林がなければ、降った雨や雪は、地面に蓄えられることはなく、土砂崩れなどの災害を起こすことを知らせ、森林は、自然のダムの役割を果たしていることを知らせる。 やがて猪苗代湖にそそぐ、水源地の水がどのように変化していくか、問いかけ等をとおして十分に児童の興味関心が高まるようにする。
２．水源の下流の高橋川の水質調査を行う。 ○川の水の様子の観察	２５	○匂いや水質調査、水生生物の採集等を通して下流の高

○水の透視度の計測 ○パックテストの実施。 ○水生生物の採集。 		橋川は、水源と比べて汚れていることを理解させる。 ○きれいだった水源の水が、人々の生活により次第に汚れてくることに気づかせる。
3．水の循環について話し合い森林の役割に気づくとともに今後、きれいな水を確保するため自分たちができることを考えまとめる。 ・水をきれいにしてくれる森林を守っていかなければならない。 ・生活排水をできるだけきれいにするための工夫をしていかなければならない。 ・下水をそのまま流さない仕組みを作らなければならない。 等	１５	○人々の生活によって汚れた水が、森林のはたらきにより、再びきれいな水となって水源地から湧き出る仕組みを知らせる。 ○今後、きれいな水環境を維持ずるために大切にしなければならないこと、自分たちができることをまとめさせるようにする。

森林環境学習実施報告 No.1
～　　の「カタクリ」観察～

町立　　小学校　第４学年

1　目　　的

学区内「桑取火」地区に群生する「カタクリ」を観察し、カタクリの植生が森林の植生と密接に関係していることに気付き、　　の森林資源の豊かさを感じることができる。

2　対象学年　　小学校　第４学年　　１６名

3　期日・時間　　平成２９年４月２５日（火）　　１３：３０～１５：３０

4　場　　所　　地区

5　講　　師　　先生

6　活動の概要

○　先生からカタクリの花が林のどんな場所を好むのかについて話を聞く児童

○　カタクリの花の咲き方や昔は根からデンプンを取っていたこと、近くに生えている「ならの木」等の雑木について教えてもらう。

○山野草について話を聞く児童

◎　カタクリの可愛らしい花が雑木林の北の斜面に生えていた。児童は、８年かけてやっと花が咲くことや、保護をしながら地区で群生地を増やしていることを知ることができた。また、カタクリの植生が好む環境が雑木林のどんな場所なのか、一つ一つの植物はそれぞれ特有の性質を持っていることを知り、感心していた。

◎　時期が早く桜は咲いていなかったが「　　の山桜」について、昔の人々が農作業の目印として切らずに残したという話を聞き、驚いていた。

校長印	教頭印	教務印

校　外　学　習　計　画

学　　年	第３学年	担任名	小　室　　翔　平　　印
教　科　等	総合的な学習の時間	日　時	平成２９年　９月　２６日（火）　第２・３・４校時
引率教師	小室　翔平・奥　洋和・保護者ボランティア		
人　　員	男子１４名女子９名	不参加児童名	なし
場　　所	荒海の川（関本地区　岩根橋下付近）		
ね　ら　い	◎　荒海地区を流れる大川での採取活動を通して、身近な自然に目を向け、学習課題をもつことができる。		
学習活動・内　容	１　事前指導 ○　探検場所、日程について知らせる。 ○　集団行動のきまり、あいさつの仕方・マナー、礼儀について指導する。 ○　持ち物・服装について知らせる。 ２　当日の日程 （１）　川の生き物について（講義）　９：２０～１０：００　学校発１０：０５ （２）　水生生物採・観察　１０：２５ （３）　採取した水生生物の説明　～１１：３５ （４）　いわね橋出発　１１：４０ （５）　学校着　１２：００ ３　準備品 ○　教師・・・救急用具　カメラ　携帯電話 ○　児童・・・体操着（半袖・半ズボン　長袖・長ズボン）　紅白帽子 川に入るための靴　タオル　飲み物 ４　その他　採取・観察に必要な道具は、星　周一先生が準備。		
配慮事項	１　事故防止に努めるように指導する。 ○　事前に岩根橋から川原におりる通路を確認しておく。 ○　当日朝、大川の水量を確認し、増水している場合は指導者と連絡を取って延期する。 ○　集合・解散・体験時における人員確認を徹底する。 ○　危険個所の確認と指導を行う。 ○　交通事故の防止と熊・猿対策を図る。 ○　川の達人（星　周一さん）と担任、担任外職員の３人で児童の行動観察を行う。 ２　保護者と協力して安全確保を図る。 ○　学級通信により、保護者に移動・活動時の安全確保をお願いする。 ３　緊急時の対応（携帯電話） ○　現場（児童）　→　引率教師　→　学校（校長）		
反　省			

No.	3	３年生　川探検　　９月

身近な樹木を知る

目　標

〇身近にある樹木を理解する。

学習概要

〇学校周辺や神社境内を散策し、身近な屋敷林を観察し
樹木の活用などについて理解する。

学習方法

〇学校周辺の樹木について案内板を利用し理解を深める。

〇学校や民家の敷地の境のシラカシやケアキを観察し、樹木
を活用している状況を知る。

〇八幡神社の記念物の杉を観察する。

〇木肌にふれ、木を感じる。

実施日等

・時期　　平成２９年　　月　　日

・場所　　八幡小学校周辺及び八幡神社境内

第４学年総合的な学習の時間学習指導案

玉川村立須釜小学校

1　単元名　　炭の出し入れ体験をしよう

2　本時のねらい

村の木材を使って作る炭の出し入れをとおして，自分の住んでいる村のよさや地元の産業について興味をもつことができる。

3　活動の流れ

学習活動・内容	時間	分担	教師の支援　※　評価
1　本時のめあてを確認する。 炭の出し入れ体験をしよう	5	担　任	（バスによる移動後） ○　活動内容や活動場所について説明し，安全のための注意を促す。
2　炭焼き職人の話を聞く。 ・　炭焼き小屋について知る。 ・　炭の作り方について知る。	１０	外部講師 担　任 担　任	○　炭焼きについて説明する。 ○　必要に応じてメモやイラストなどの記録をとらせる。 ○　炭の作り方について児童からの質問を受け付ける。
3　炭の出し入れ体験をする。 ・　炭焼き小屋から炭を取り出す。 ・　炭焼き小屋に新しい木材を搬入する。	５０	外部講師 担　任	○　炭の出し入れの仕方を指示する。 ○　安全面に配慮し，作業の助言をする。 意欲的に炭の出し入れ体験をし，村のよさや地元の産業について興味をもつことができたか。（観察）
4　本時の学習を振り返り，気付いたことや感想を発表する。 ・　生産者の方の願いを知る	２５	担　任 外部講師	○　本時の学習をとおして気付いたことを発表させる。 ○　村の自然を生かした産業について説明し，自然を守りながら自然とともに暮らしていくことの大切さを理解させる。

森林環境学習実施報告
～　　の滝見学～

町立　　小学校第４学年

1　目　的

（１）　　沼や　　の滝を観察を通して、　　町の森林や自然の様子に関心を持つ。

（２）　ふるさとの森林に関心を持ち、植物や動物を大切にしようという心を育てる。

2　場　所　　森林公園・　　の滝（　地区付近）

3　実施学年・人数　　第４学年16名

4　実施期日・時間　　平成２９年６月６日（火）8:30～11:30

5　指導者・引率者　　講師　　教諭

6　活動の実際

【　　さんから様々な植物の説明を聞く】

【　の滝の迫力におどろく子どもたち】

○　児童は、春ゼミやホトトギスの鳴き声を聞きながら初夏の　　沼周辺を散策した。沼特有の植物や昆虫を観察し、浮島は風によって動いていることを知り、秋や冬もまた森林の様子を観察してみたい、という感想を残した児童が多かった。

○　　の滝は、江戸時代のお殿様が参勤交代の休憩中に「　　美しい滝だ。」と感動したことから名が付いたことを知り、昔から変わらずに美しい自然が残っていることに感心していた。そして　　町には身近にこのような素晴らしい自然があることを知り、そのすばらしさを実感できたことは、ふるさとの森林や里山を大切に守っていこうという心情を育てるのにとても効果的であった。

校長印	教頭印	教務印

校　外　学　習　計　画

学　　年	第　4　学　年	担任名	渡　部　恵　美　　印
教　科　等	総合的な学習の時間	日　時	平成２９年6月２１日（水）　第２・３・４校時
引率教師	渡部　恵美　　長谷川　貴司		
人　　員	男９名　女５名	不参加児童名	
場　　所	荒海の山（穴沢川周辺）		
ね　ら　い	穴沢川周辺の里山を散策し、身近な地域の自然に目を向けることができる。		

学習活動・内　容

1　事前指導

○　探検場所、日程について知らせる。

○　集団行動のきまり、あいさつの仕方・マナー、礼儀について指導する。

○　持ち物・服装について知らせる。

2　日程・コース（交通機関・・・徒歩）

９：３０～　はじめの会（荒海小玄関前）

（１）　はじめの言葉

（２）　講師紹介

（３）　講師あいさつ

（４）　諸注意

９：４５～１１：２５　自然観察

１１：４０～　おわりの会（荒海小玄関前）

（１）　感想発表

（２）　お礼の言葉

（３）　終わりの言葉

3　準備品

○　教師・・・救急用具、カメラ、携帯電話

○　児童・・・探検バッグ、筆記用具、長袖・長ズボン、紅白帽子、長靴、タオル、水筒、熊よけの鈴、雨具、軍手

配慮事項

1　事故防止に努めるように指導する。

○　集合・解散・体験時における人員確認

○　危険箇所の確認と指導

○　交通事故の防止

○　引率者で児童の行動観察や猿・熊に対する対策を行う。

2　緊急時の対応（携帯電話）

現場（児童）　→　引率教師　→教頭　→　校長

反　省

平成２９年度　森林環境学習事業資料（写真）

南会津町立荒海小学校

No.	2	４年生里山探検　６月

猪苗代町立吾妻小学校

第４学年　総合的な学習「水の旅」学習指導案と学習の様子

平成２９年９月４日(月)

場　所　裏磐梯・小野川不動滝

1　めざす子どもの姿

猪苗代湖の水はどこから流れてくるのか，湖の水の美しさの秘密はどこにあるのかといった疑問を解決するとともに，自然のすばらしさを体験することができる子ども。

2　単元名「水の旅」

3　学習計画（総時数１７時間）

（1）「猪苗代湖のはてな？」を見つける。　・・・２時間

（2）「はてな？」解決の計画を立てる。　・・・２時間

（3）フィールドワークに出かける。　・・・８時間

①　猪苗代湖の水はどこからやってくるのかな？（本時）　（４）

②　猪苗代湖の水がきれいなのはどうしてかな？　（４）

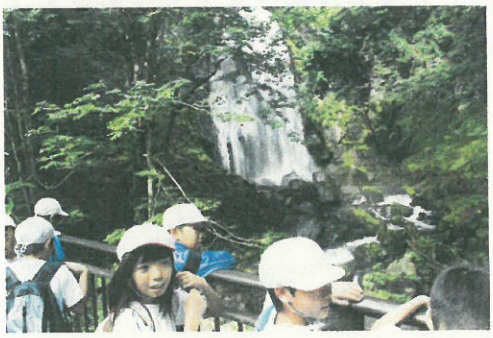
（4）　学習のまとめ・発表　・・・５時間

3　本時の目標

猪苗代町のシンボルの１つである猪苗代湖の水がどこから流れてくるのか，どうして猪苗代湖の水はきれいなのかという疑問の答えを見つけるとともに，猪苗代湖での水遊び体験を通して自然の豊かさやすばらしさを感じることができる。

4　学習過程

学　習　活　動	時間	教師の支援
1　本時のめあてを確認する 猪苗代湖の水のはじまりはどんなところ何だろう？ 	5	○　問題解決・体験・観察への意欲を高めるとともに安全な活動となるよう注意事項確認する。 ○　遊歩道の近くを流れる川の様子や石の様子に気がつくように言葉をかけ、観察の視点を与える。
2　小野川不動滝を見る。 （1）　遊歩道を歩きながら横を流れる川や森の様子を観察する。 ・流れの速さ　・石の形や大きさ ・水量　・水の流れる音 ・木の大きさ　・木の種類	２０	

（2） 小野川不動滝とその周辺の森の様子を観察する。 ・不動滝の雄大さを感じる。 ・水質を調べる。 ・滝の近くに湧水を見つけ，まわりの木々の様子を観察する。 	３０	○ 滝全体を見ることができる場所から滝の大きさ雄大さを観察させる。 ○ 安全に気をつけて滝に近づき，滝の水量や音を感じさせる。 ○ ＰＨ紙を使って滝の水の酸性度を測定する。
３ 滝や湧水が川になり裏磐梯の湖に流れ込んでいることを，川をたどりながら確認する。 ・小野川湖や檜原湖の流れ込みや放水路を巡り確認する。 	２０	○ 山から水が湧き出る場所を見つけ，観察させる。 ○ 湖への流れ込む川の様子や放水路を観察し流れのつながりを意識させる。
４ 裏磐梯の水の不思議をさぐる。 ・裏磐梯ビジターセンターで五色沼の水の色の不思議を調べる。 ・ビジターセンターの方の説明を聞く。	４０	○ 子どもたちの疑問を専門家の話を聞いて解決できるようにする。
５ 本時の学習を振り返り次時への意欲を高める。 ・源流近くに大きな滝があったこと。 ・滝の近くに湧水がたくさんあったこと。 ・川の流れが裏磐梯の湖を通りながらつながっていること。 ・滝の水は酸性が強かったこと。 ・猪苗代湖の水も酸性が強いのかな？	１０	○ 滝の近くに湧水があり，そのまわりには大木がたくさんあったこと。また，湧水が集まって長瀬川や酸川となって猪苗代湖に流れていることを確認するとともに，次時の学習への意欲を高める。

猪苗代町立千里小学校

平成２９年６月　２日

猪苗代町立千里小学校長　様

第４学年担任　荒　春菜

校 外 学 習 実 施 計 画

下記のとおり、校外学習を実施したいので、許可願います。

記

１　教科・領域等　　総合的な学習の時間

２　調べよう　ぼくたちの水

３　指導のねらい・内容など

①　裏磐梯の湖や、猪苗代町の水の流れについて関心を持ち、意欲的に調べながら追究する。

②　湖や裏磐梯の自然を守るために、どのような努力や工夫がされているのか理解する。

４　日時　　平成２９年　６月１４日（水）　第１校時～第４校時
（８：４５～１２：１５）

５　目的地　　裏磐梯湖沼群・ビジターセンター・秋元発電所

６　日程・経路等

８：５０　千里小学校出発　→　９：２０　裏磐梯湖沼群着・見学　→
１０：４０～１１：１０　ビジターセンター着・見学　→　１１：３０　秋元発電所着・見学
→１２：１５千里小学校着

７　移動方法　　バス

８　経費　　特になし

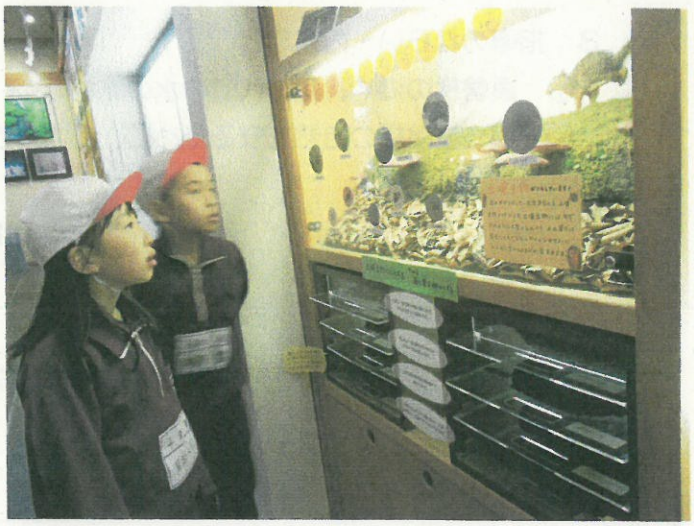
９　参加児童　　４年生　１０名　　引率　１名　　計　１１名

１０　安全・その他の留意事項

①　怪我や事故に十分気をつけ、集団での行動の仕方について十分に指導する。

②　ジオパークガイドの方々に進んであいさつをしたり、話を聞いたり、質問ができるように指導する。

１１　備考　　児童持ち物（探検バッグ・筆記用具・紅白帽子・上履き・傘（雨天時））
担任持ち物（救急バッグ）



猪苗代町立千里小学校

平成２９年度　５学年森林環境学習計画

１　期　　日　　平成２９年６月１５日（木）
＜総合　　４時間＞
＜単元名　ぼくら大地の探検隊！＞

２　参加学年　　５学年２５名

３　引率教師　　５学年担任

４　活動場所　　猪苗代町「昭和の森」「緑の村」

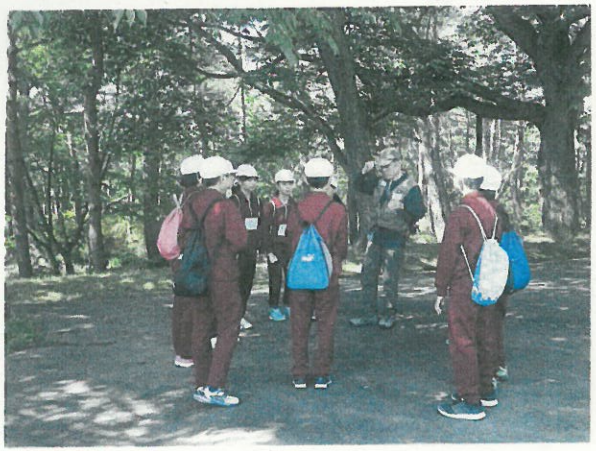
５　指導者　　橋口　直幸　氏　（森の楽校フォレストランド）他
℡７２－１１８１
他　２名

６　日　程
千里小学校発（８：３５）　→　昭和の森着（８：４５）
昭和の森発（１０：３５）→　緑の村着（１０：５０）
緑の村発（１１：５０）　→　千里小学校（１２：０５）

７　移動方法　　スクールバス

８　費　　用　　０円
※　森林環境学習からの助成金

９　準 備 品
○　児童　　運動着、軍手、タオル、水筒、弁当、雨具（カッパ等）
○　教師　　救急バック、笛、児童名簿、弁当



森林に学ぶ

植物の成長のようすを比べよう

植物の成長の変化を探る

授業実践例　第4学年（教科関連型）学習指導案

1　単元名　　「すずしくなると」

2　本時のねらい

○　秋の植物の様子に興味をもち、春から夏に観察した植物の様子を観察して記録し、これまでの記録と比べ、成長の様子と気温との関係を考えることができる。

○　ヘチマやサクラなどの落葉樹の様子を対比して、ヘチマが枯れることと落葉樹の葉が枯れ落ちることとの違いに気づき、次の季節の活動への意欲を持つことができる。

3　活動の流れ

学　習　内　容　・　活　動	時間(分)	○教師の支援および留意点
1　本時のめあてをつかむ。 （1）資料写真を見て、このごろの植物の様子について話し合う。 すずしくなって、植物の成長のようすは、どのようになっているだろう。	１０	○　夏の写真と、秋の写真を提示することで、本時の学習への関心を高める。 ○　「暑くなると」の学習で学んだ『暑くなるとともに、サクラの葉が茂って、枝が伸びた。』ことについて確認させ、すずしくなって、どう変化しているか考えさせる。 ○　夏に予想した生き物の様子を想起させ、進んで観察しようとする意欲を高めたい。
2　植物の様子を観察する。 （1）気温を測る。 （2）木の様子を観察して記録する。 ・　えだの葉、木全体の様子 （3）ヘチマの様子を観察して記録する。 ・　伸びた茎の長さ ・　実や葉の様子	３５	○　気温の測り方を確認させ、調べる場所の気温を測って記録させるようにする。 ○　サクラの葉を１枚ずつ取らせ、画用紙に貼り、掲示する。 ○　サクラ以外の樹木の様子の変化にも、目を向けさせるようにする。 ○　サクラなどの樹木との違いについても気づかせたい。
3　夏と比べての変化についてまとめる。 （1）春や夏の記録と比べ、気づいたことをまとめる。 （2）気づいたことを交流する。 ・　グループ ・　全体	２５	○　春や夏と比べての変化の原因を考えさせ、気温の変化が関係していることに気づかせたい。 ○　交流を通して、自分の考えを深めるとともに、自分と友だちの考えの違いに気づき、より良い考えを追求する姿勢を育てたい。
4　本時のまとめをする。 （1）分かったことをまとめる。 （2）発表する。 すずしくなると サクラの葉…葉の色が変わり、落ち始める。 ヘチマ…葉も実も枯れ始める。 （3）冬に向けて、今後の変化について予想する。	２０	○　本時の学習で分かったことを、自分の言葉でまとめさせる。 ○　気温の変化と植物の様子の変化を関連づけてとらえさせる。 ○　冬に向けての今後の変化を予想させ、継続観察への意欲を高めたい。

サクラの葉
すずしくなると、サクラの葉の色が変わってきた。
葉が落ち始めていた!!

平成２９年度　野外活動実施計画案

南会津町立荒海小学校

１　目的

地域の美しい自然の中での集団活動を通して，平素と異なる生活環境の中で，見聞を広め，自然に親しむとともに，人間関係などの集団生活の在り方や公衆道徳などについて，望ましい体験を積むことができるようにする。

（１）自然を生かした活動を通して，自然の偉大さやすばらしさを知り，自然に親しもうとする態度を育てる。

（２）地域の身近な自然に触れることで，自然に恵まれた地域のよさや自然の大切さに気づかせ，今後も地域の自然を愛護し，保全していこうとする態度を育てる。

（３）集団生活を通して，基本的な生活習慣や公衆道徳を身につけることができるようにするとともに,集団生活の望ましい在り方について考えさせ,実践させることにより、今後も互いに思いやり協力し合って生活しようとする意欲を高める。

２　日時　　平成２９年　６月６日（火）　９：３０～１２：３０（総合４行事２）
雨天順延　　６月７日（水）
※駒止湿原案内の会の方による事前学習
５月２３日（火）５校時（１４：００～１４：４５）

３　目的地･･･駒止湿原

４　参加児童　　第４学年児童

第４学年	男子　９名	女子　５名	計１４名

５　引率者　○　教　　務　　塩生　文子
○　第４学年担任　　渡部　恵美

６　準備物

学校	・デジカメ　・緊急連絡表　・救急用具
児童	○　服装 ・運動着（長袖・長ズボン，半袖・ハーフパンツ）　・紅白帽子　・運動靴(はき慣れた靴) ○　持ち物（リュックサック等） ・お弁当　・水筒　・タオル　・ハンカチ　・ちり紙　・雨具（合羽）　・しおり ・筆記用具　・防寒具（ウインドブレーカーなど）　・リーフレット ・薬(薬を飲んだり,つけたりしなければいけない人)

７　教職員係分担

教　　務	塩生　文子	全体指導・指揮，緊急連絡，写真記録
第４学年担任	渡部　恵美	計画立案，運営全般，活動の指導・進行，活動の準備，渉外，写真記録 安全管理，児童の健康管理

8　事前・事後指導

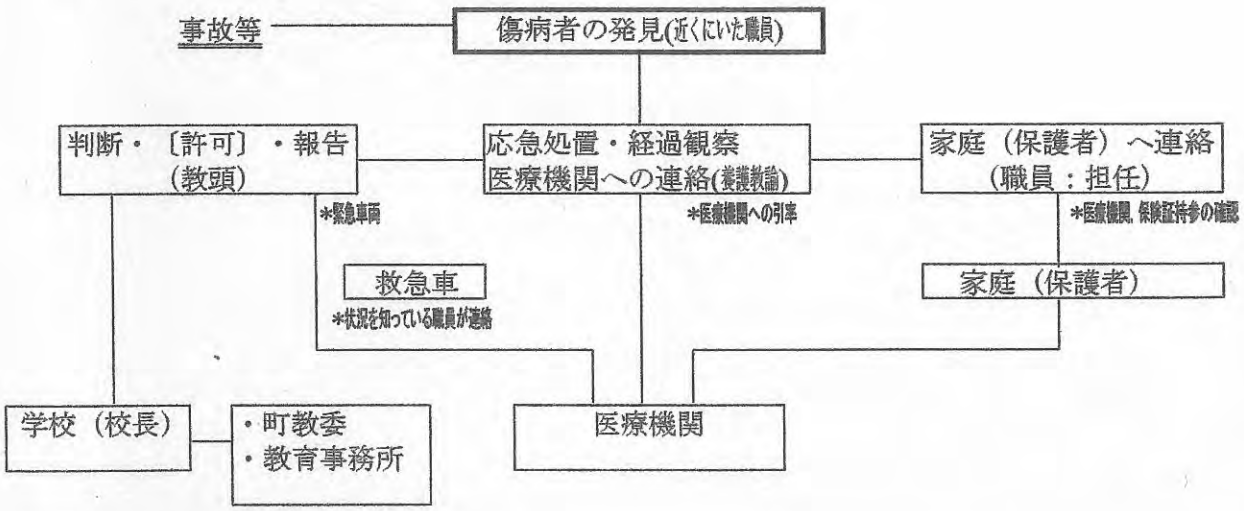
	月	日	曜日	指　導　内　容	時間	学　年
事前	5	２２	月	野外活動の目的，活動内容，班編成，約束確認	学級活動	4年
		２３	火	自然の偉大さを知り，自然環境を大切にしようとする態度を養う。（駒止湿原守る会の方々による指導）	総　合 （５校時目）	4年
当日	6	6	火	野外活動（駒止湿原）	総合（４時間） 行事（２時間）	4年
事後		7	水	野外活動での活動を振り返り，発表し合う。	総　合	４年
		8	木	駒止湿原案内人の方々にお礼の手紙を書く。	総　合	４年

9　事故等発生の連絡について

○　事故が発生した場合は，直ちに，学校（校長）及び関係機関，保護者と連絡を取り対応する。

○　体調不良者が出た場合は，様子を観察しながら，保護者と連絡し，早退させるなどの適切な処置をする。なお，事前に身体の異常により参加できなくなった場合は，保護者との連絡により自宅で休養をとらせるようにする。

≪救急体制≫　※応急処置連絡の手順



≪報告機関等≫

○学　　校：０２４１－６６－２１０９　○校　長　宅：０９０－３９８４－８９３２
○教育委員会：０２４１－６２－６３００　○教育事務所：０２４１－６２－５２５５

○南会津保健所：０２４１－６２－１１２０　○南会津警察署：０２４１－６２－１１４０
○南会津消防署：０２４１－６３－３１１９　○南会津病院：０２４１－６２－７１１３

※　参加者全員の緊急連絡表を準備し，上記の事態に対応する。

（1）「駒止湿原探勝」について

○　移動について

・　町バス１台で移動する。

・　乗車については，駒止湿原探勝班ごとに乗車する。

○　探勝について

・　３人の駒止湿原案内人の方々の協力を得て，１班５名　２班５名　３班４名の班を編成し，専門的な立場からのお話を聞かせていただきながら，湿原を散策する。

・　５月２３日（火）５校時に駒止湿原案内の会の方々に学校に来ていただき，駒止湿原について専門的な立場から事前指導をいただく。

※　駒止湿原案内の会　℡　０２４１－５７－２１８０　（６２－１２４８）

○　昼食について

・各自で用意し，駒止湿原探勝後，駐車場付近で昼食をとる。

（2）雨天・荒天時の活動について

○　駒止湿原探勝について

・　風雨等が激しい場合は実施しない。

※　当日の朝に天候状況を見て，駒止湿原探勝の実施について判断をし，下記に連絡する。

・町バス（教育委員会）　・駒止湿原を守る会

10　日程

６月６日（火）

時刻	活動内容【場所】	備考（※交通手段など）	場所
８：１０	○学校発　駒止湿原へ移動	※町バス１台	
９：３０	○駒止湿原着 事前指導・講師紹介	・駒止湿原案内人３名	○駒止湿原入口駐車場
９：４５	○活動　「駒止湿原探勝」		
１２：００	○事後指導・感想発表		○駒止湿原入口駐車場
１２：３０	○昼食		○　昼食 【駒止湿原入口駐車場】
１３：４５	○駒止湿原発	※町バス１台	
１５：００	○学校着		

平成２９年度　森林環境学習事業資料（写真）

南会津町立荒海小学校

No.	1	４年生野外活動（駒止湿原）　６月

森林にくらす

炭のはたらき

炭の効用を生かした置物づくり

第４・５学年（磐梯第一小学校）

関連教科等　理科４・５年　　社会科４・５年　　図画工作科４・５年

学習のねらい

炭の置物づくりを通して，炭には消臭効果や浄化作用などがあることを知り，森林がくらしと深く関わっていることへ感謝すると共に，森林を守って行こうとする気持ちを持つ。

授業計画　９月：２時間（９０分）

・講師（西会津森林組合職員）より，炭の効果と効果を生かした置物（４年生），風鈴（５年生）作りについて説明を受ける。（３０分）
・炭を切ったり，つないだりして工作する。（５０分）
・炭や森林について，本時の活動から考えたことを発表する。（１０分）

学習活動

【炭・森林について知る。】

【５年生：風鈴づくり】

【４年生：置物づくり】

第4，5学年　総合的な学習（学習指導案）

1　単元名　「一人一花運動」

2　本時のねらい

　卒業式、入学式会場の装飾に向け、パンジーの苗植えやチューリップの球根植えの活動をすることを通して、花や緑を育てる喜びや自然の大切さを感じることができる。

3　活動の流れ

学習内容	時間（分）	分　担	○教師の支援　◆評価
1　「一人一花運動」の活動について知る。 2　本時のめあてをつかむ 卒業式、入学式の感謝の気持ちを伝えるために心をこめて苗を植えよう。	5	担任 GT	○　卒業式、入学式の会場をきれいに彩り、式を自分たちでつくり上げていこうという気持ちを高めていく。 ○　GT からも活動についての説明を聞くことで、花や緑を育てる活動が命を育むことにつながっていることにも触れていく。
3　苗の植え方を知る。 4　苗植えをする。	5 ３０	ＧＴ ＧＴ 担任	○　実際にＧＴに植える手順や植え方を見せてもらうことを通して、スムーズに作業に入れるようにする。 ○　児童の意識が作業だけに追われないように、卒業生への感謝の気持ちや新入生を迎え入れる気持ちにつなげていけるようにする。 ○ 教科や道徳ともつなげて行けるよう、に、活動の際には、関連性を意識できるようなコーディネートをする。 　また、植えた喜びを感じ取らせる言葉かけや投げかけをすることを通して、これから大切に育てていこうという気持ちを高めていく。
5　本時の学習を振り返り、気づいたことや感想を発表する。	5	担任	○　気づいたことや感想を述べ合う中で花を育てていくことに対する意識を高めていく。 ◆　花や緑を育てる喜びや自然の大切さを感じることができたか。（観察・感想）

ＧＴ：コメリ緑化基金担当者

【準備物】　児童　…　軍手、長袖

学校　…　プランター（３０）、移植ベラ、土、苗・球根

※　なお、土と苗・球根については補助金を活用して購入する。

HISAWA
ELEMENTARY
SCHOOL

平成２８年度　「森林環境学習」実施案

１　目　的

間伐材を利用した木工クラフトや講師の講話を聞くことにより、田村市には豊かな森林があることを理解するとともに、森林の役割やそれらを守り伝えようとする心を育てる。

２　日　時　　平成２９年１月２６日（木）
９：２０～１１：１０　　授業時数（総合２時間扱い）

３　場　所　　図工室

４　対象学年　５学年　　児童２２名　　教師２名

５　準　備　　児　童：運動着と筆記用具

６　経　費　　◯木工クラフト代･･･２８，８００円
内訳　１，２００円×（児童 22 名＋教師 2 名）
◯講師謝礼…１５，０００円　　内訳　５，０００円×講師３名
（１ｈ 2,500 円×２ｈ）
※経費は全額、森林環境学習事業より支出

７　授業展開

時刻	学習活動	留意点
９：２０ ～９：２５	１　講師の話を聞き、学習の見通しをもつ。	○　あいさつをきちんとさせる。 ○　釘打ち等安全面に注意して作るよう個別に支援する。
９：２５ ～１０：２０	２　「可動式本立て」作りをする。 （１）材料セットを持ってきて、順序に従い製作する。 （２）講師の先生方の個別支援を受ける。	○　早く終わったらペーパーがけ等をして、作品をさらによく仕上げることができるようにさせる。
１０：２５ ～１０：５５	３　森林環境について講話を聞く。 ・田村市の森林分布の特徴 ・森林のはたらき ・森林環境保全の意義 ・木材資源の活用　など	○　重要な事項はメモしながら聞くようにする。
１０：５５ ～１１：０５	４　疑問に思ったことを質問したり、分かったことをノートにまとめたりする。	○　社会科・総合学習と関連させ、事前に質問事項をまとめておくよう指示する。
１１：０５ ～１１：１０	５　片づけをする。	○　お礼のあいさつをきちんとさせる。

８　その他

○　本箱作成の木材、道具一式全て講師（田村森林組合）が持参します。
○　実施後は速やかにお礼の手紙を書く等、活動のふり返りをきちんとさせる。
○　連絡：田村森林組合　　様
〒９６３－４６０３　田村市常葉町西向字堂ヶ入６２－７
（℡．0247-67-1101　FAX．0247-67-1171）

森林環境学習実施報告
～木地師体験～

小学校　第５学年

1　目　的
○　南会津はどのようにして森林を活用してきたのかを調べることができる。
○　なぜ、この土地で木地師の仕事をしていたのかを調べることができる。
○　木製品の加工を実際に体験し、　　町の伝統的な産業に興味を持つことができる。

2　対象学年　　小学校　第５学年　１６名

3　日　　持　　平成２９年５月３１日（水）　９：００～１１：４０

4　場　　所　　ろくろ「　　工房」

6　講　　師　　

7　活動の実施概要

○　先生に加工の仕方について聞く

○　教えてもらいながら実際に体験する

○　仕上げにやすりでお皿を丁寧に磨く

○　素敵な作品が出来上がり笑顔の地黄

◎　木地師の仕事や歴史について理解し、　　町では森林資源を生活や産業に生かしてきたことを知ることができた。
◎　ろくろを使って木を削って、器を制作する活動に意欲的に取り組み、全員が作品を製作し、活動の満足感を感じることができた。

第５学年　総合的な学習の時間指導案

平成２９年４月２８日（金）
１３：００～１４：３０
学校周辺森林
T1：佐藤三和子　T2：NPO山の会

1　単元名　　春の森林を観察しよう

2　本時のねらい
　身近にある森林を散策したり、森の植生に詳しいゲストティーチャーから説明を受けたりして、春の自然やこれからの様子の変化に関心をもつことができる。

3　指導過程

学習内容	時間分	教師の支援　＊評価	
		授業者	G T
1　ゲストティーチャーと出会い、本時のめあてをつかむ。 春の自然を感じ取ろう。	１０	○GT２名を紹介し、春の自然散策への関心を高めることができるようにする。	
2　森林を散策する。	７０		
（１）草木の説明を受けて		○GTの説明が専門的な場合、詳しい説明を求めたり、子どもたちにわからないことがないか確認したりする。	○子どもたちにできるだけ分かりやすい言葉で説明したり、クイズ形式で問いかけたりするようにする。
		○草木の種類や植生等で気になったことを積極的にGTに質問できるように、子どもたちに促すようにする。	○発見をしたり疑問を持ったりした子どもの発言を取り上げて称賛し、積極的に学習できるようにする。
（２）草木探しをしながら		○自分のお気に入りの草木を採取して集めて歩くよう促す。	○変わった葉や虫採取を促したり、名前を教えたりする。
（３）草木で料理を作って ○　落ち葉 ○　木の実　など		○一つのメニューが作れる量を拾うよう声かけをする。	○落ち葉や木の実を中心に料理作りをするよう指示する。
3　本時を振り返る。	１０	○本時見つけてきた珍しい草木や名前、気づきなどを振り返ることができるよう促し、今後の様子の変化に関心を持つことができるようにする。	○夏の森林観察に向けて関心が高まるように、これからの森林の様子の変化について触れるようにする。

【実際の画像】

小学校第５学年　森林環境学習指導資料

単元名　「森林環境について考えよう」　（総合的な学習の時間）

１　学習のねらい

○　身近な森林環境について興味・関心を高める。
○　森林の働きについて理解することができる。
○　森林環境を守るためにはどのような取組が必要か考えることができる。

２　単元の指導計画（総指導時数４７時間）

（１）学習課題を決め、学習の計画を立てる。・・・・・・・・・・・・・・・・・・４時間
（２）身近な森林や、フォレストパークあだたらで森林について学ぶ。・・・・１８時間
（３）新たな疑問や追究して調べたい課題について調べる。・・・・・・・・・・１５時間
（４）学習したことをまとめ、発表する。・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１０時間

３　学習活動の実際

（１）　学習テーマ「フォレストパークで森林について学ぼう」・・・（２）４～７時
（２）　体験的な活動を通して森林についての興味・関心を高めるとともに、森林の働きについての理解を深めることができる。
（３）　学習活動

①　森の案内人の説明を聞きながら、森林を散策する

森の案内人とともにフォレストパーク内の森林を散策した。木の種類によって葉の形や大きさが異なること、森林には多様な植物や動物が生きていること等を説明していただいた。身近には無い大きな葉や、木の実などに触れながら説明を聞くことで、森林への興味・関心を高めることができた。

②　森の案内人に、疑問に思ったこと等を質問する

学習計画を立てる際に、学校周辺の林を観察して調べたいことを整理し、質問事項もまとめておいた。そのことを中心に森の案内人に質問した。また、当日森林について説明を受けながら、疑問に思ったことはその場で質問した。学校周辺の森林との違いにも気付き質問する姿が見られた。

③　森林館で、森林の働き等について知る

フォレストパーク内の森林館では、展示している木や森林の地図等をもとに、木材や森林の働きについて説明を受けた。自分たちが図書資料等で調べた内容よりも詳しい説明を聞き、森林についての理解を深めることができた。帰校後は、調べたことをまとめるとともに、新たな疑問について話し合い、次の学習課題を設定することができた。

第５学年　総合的な学習の時間指導案

平成２９年９月８日（金）
１０：３０～１１：４５
本校周辺森林
T1：佐藤三和子　T2：NPO山の会

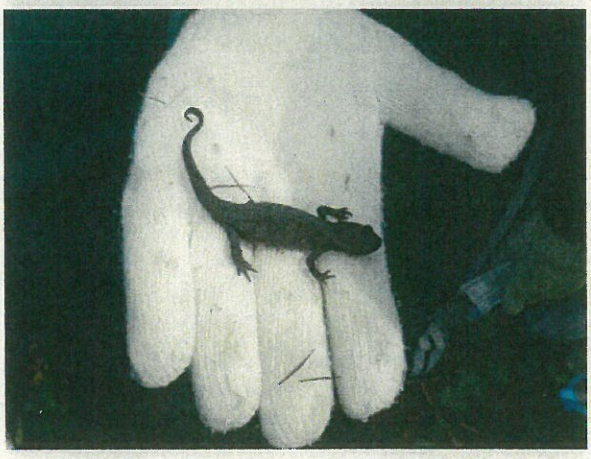
1　単元名　　夏の森林を観察しよう

2　本時のねらい
　身近にある森林を散策したり、森の植生に詳しいゲストティーチャーから説明を受けたりして、春とは違った夏の植生の様子や草木の様子の面白さに気づくことができる。

3　指導過程

学習内容	時間	教師の支援　＊評価	
		授業者	G T
1　ゲストティーチャーと出会い、本時のめあてをつかむ。 夏の草木の面白さを発見しよう。	5	○GT２名を紹介し、春とは違った夏の自然散策への関心を高めることができるようにする。	
2　森林を散策する。	65		
（1）草木の説明を受けて		○GTの説明が専門的な場合、詳しい説明を求めたり、子どもたちに分からないことがないか確認したりする。	○子どもたちにできるだけ分かりやすい言葉で説明したり、クイズ形式で問いかけたりするようにする。
（2）樹木の面白画像を撮りながら		○草木の葉や樹皮等で、何かに見えたり模様が面白かったりするものを見つけることができるように声かけをする。	○面白い見立てをし始めた子どもを称賛し、積極的に学習できるようにする。
3　本時を振り返る。	5	○本時見つけてきた面白い草木や模様等を振り返ることができるよう促す。	○普段から、草木の変化や模様の面白さに関心が持てるような声かけをする。

【実際の画像】



第5学年　森林学習授業案（総合的な学習の時間）

平成30年2月予定
指導者
場所　図工室

1　単元名　　森林環境学習

2　本時のねらい

○ 環境を守る森林の働きの維持に向けて間伐が行われていることを知り、間伐材も有効利用されていることをクラフトづくりを通して理解することができる。

3　授業の流れ

学習内容・活動	時間	○教師の支援　◇評価
1　森林の働きについて知っていることを話し合う。 ・木材の生産 ・水をきれいにする。 ・水をためる。洪水を防ぐ。	5	○社会科での学習と関連させ、視覚資料を提示して話し合いの活性化を図る。 ○外部講師を招き、TTで指導にあたる。
2　間伐の必要性を理解する。	5	○間伐の必要性に気付かせるような言葉かけを行う。 ◇間伐の必要性が理解できたか。（観察）
3　間伐材の有効使用について考える。	5	○具体的な資料を提示し、理解を図る。
4　間伐材を使用したクラフト工作をする。	60	○安全面に配慮した支援をする。 ◇時間内に作品を仕上げることができたか。
5　作品を互いに鑑賞し合う。	10	
6　学習のまとめをする。	5	◇森林の働きを維持するためには間伐が必要であり、間伐材もまた有効利用されていることが分かる。

第５学年　総合的な学習の時間指導案

平成３０年２月１６日（金）予定
１０：２０～１１：４５
本校周辺森林
T1：佐藤三和子　T2：NPO山の会

1　単元名　　冬の森林を観察しよう（アニマルトラッキング）

2　本時のねらい
　冬の森林をかんじきを履いて散策することにより、冬の動物たちの暮らしを学ぶことができる。

3　指導過程

学習内容	時間	教師の支援　＊評価	
		授業者	G T
1　ゲストティーチャーと出会い、本時のめあてをつかむ。 冬の動物の暮らしをのぞいてこよう。	１０	○GT２名を紹介し、地域の野生動物や冬の動物への関心を高めることができるようにする。	
2　周辺に生息する動物について知る。 （1）剥製をもとに	２０	○ GT の説明が専門的な場合、詳しい説明を求めたり、子どもたちに分からないことがないか確認したりする。 ○剥製に触ってもよいことを助言し、なかなか触れられない剥製に触れて動物を感じることができるようにする。	○子どもたちにできるだけ分かりやすい言葉で説明したり、クイズ形式で問いかけたりするようにする。 ○発見をしたり疑問を持ったりした子どもの発言を取り上げて称賛し、積極的に学習できるようにする。
3　森林を散策する。 （1）かんじきを履く	５０	○雪上をしっかり歩くことができように、GT と共にかんじきがはけているか確かめる。	○一人一人しっかり履けているか確認する。
（2）動物の足跡や食痕を探す		○ゆっくり歩いてよいことを告げたり、慣れてきたら周りの雪上に目をやったりできるよう声をかける。	○動物の足跡や食痕を子ども全員が見ることができるよう時間をとりながら歩くようにする。
3　本時を振り返る。	5	○本時見つけてきた動物の足跡や食痕について振り返り森林の豊かさが生み出す動物の暮らしについて振り返る。	○森林の豊かさと動物の種類の豊かさを結びつけて振り返るようにする。

【昨年度の例】

小学校　第５学年　総合的な学習の時間学習指導案

１　単元名　　夏井川から環境を見つめよう

２　ねらい

夏井川上流部の水質検査及び生物調査をし、水質や生息生物の違いから、森林が夏井川の水質や生物に与えるはたらきについて理解することができる。

３　学習活動計画（総時数１７時間）

（１）夏井川について知っていることや疑問点を話し合い、学習計画を立てる。　…１時間
（２）夏井川について調べる。　…４時間
　①　学校周辺の夏井川の生物調査をする。
　②　生物調査の結果をまとめ、新たな課題を見出す。
（３）夏井川上流部を調べる。　…４時間
（４）夏井川源流から　　小学校付近までの水質や生物の変化を調べる。
　②　調べた結果を基に、下流部の水質と生物の違いを比較し、新たな課題を見出す。
（４）森林が河川の水に与えるはたらきについて調べる。　…６時間
　①　上流部から中流部域までと、下流部域の環境の違いから、森林のはたらきに着目して調べる。（本時１／２）
　②　森林のはたらきについて話し合い、分かったことをまとめる。
（５）私たちができる環境保全について考える。　…２時間

４　学習展開

学習内容	時間	○教師のはたらきかけ
１　森林の豊かさと水質との関係について、本時の問いをもつ。 豊かな森林は、水をきれいにしていくはたらきがあるのかな。	１０	○　上流から中流域と下流域の写真を提示し、河川周辺の環境の違いに目を向けるであろう子どもの気付きから本時の問いを引き出す。
２　森林のはたらきについて、水質検査や生物調査の結果と比較しながら話し合う。 （１）森林が水質に関係しているか自分の考えをもつ。 ・　下流域には森林が少ないから水質も悪化しているのかな。 ・　下流域は、人口が多いから、水が汚れるのは当たり前だと思う。 ・　どうすれば調べられるかな。 （２）森林の土を見て、感じたことを話し合う。 （３）グループで調べる方法を考える。 ・　森林の土でろ過装置を作って ・　森林の土を顕微鏡で調べて　など	２５	○　自分なりの根拠をもつようにすることで、今後の話し合いの対立軸を生じさせていく。 ○　森林の何が水質に関係しているのかを問うことで、「森林の土ではないか」という子どもの言葉から、「実際の土はどうなっているか調べたい」という必要感をもたせていく。さらに、実際に森林の土を提示し見た目や手触り　から得られる感触を話し合わせ、「やはり他の土とは違う」という気付きから、「具体的に調べたい」という思いを引き出していく。
３　次時の課題をもつ。 森林の土と他の土を比べて、森林のはたらきを見つけたい。	１０	○　次時の学習について、どのようなことをするのかグループごとに発表させることで、次時の学習への見通しをもたせていく。

授業実践学年　第５学年（２月）

１　単元名　「わたしたちの生活と環境」　１　わたしたちの生活と森林（２／６時間）

２　本時のねらい
・　森林資源の働きや森林資源の利用について関心を持ち、意欲的に調べることができる。
・　森林が国土の保全や水資源の涵養などに重要な働きをしており、その保護や育成が必要であることを知り、環境保全のためにできることを考えることができる。

３　活動の流れ

段階	学習活動・内容	時間	指導上の留意点・評価(方法)
導入	１　これまでの経験や前時までの学習を想起し，本時のめあてをつかむ。 森林にはどんな働きがあり，森林資源はどのように利されているだろう。	５	○　これまでの学習や経験・知識をもとに，森林とわたしたちの生活とのかかわり考えさせ，本時のめあてにつなげる。 ・　水源涵養，空気の浄化 ・　生物の生活空間 ・　木材の生産（家、道具、薪） ・　山崩れや水害から守る　など
展開	２　森林にはどんな働きがあり，森林資源はどのように利用されているか話し合う。 ○　森林の働き ○　森林資源の利用	１５	○　生活と結びつけて考え、ワークシートに記入し話し合わせる。 ○　国語「森林のおくりもの」で学習したことをもとに生活と結びつけながら考えさせる。 ○　グループで考えを発表し合い，様々な働きや利用の仕方について共有する。
	３　これからの林業では何が大切か考える。 （１）２つのグラフを比較し，人工林と天然林の面積や量はどう変化しているか読み取る。 ・　面積は変化なし ・　量は増加，特に人工林 （２）森林を守り育てるために大切なことを考える。	２０	○　２つのグラフから，人工林と天然林の面積や量はどう変化しているか読み取らせる。 ○　面積の変化がないのに，なぜこんなに量が増えているのか。特に人工林が増えているのか考えさせる。 ○　理由を考えさせることにより，県や国の計画管理，その必要性について考えさせる。 森林の働きや森林資源の利用について理解し，森林を守り育てるためにできることを考えることができる。 （ワークシート・発表）
終末	４　本時のまとめと次時学習内容を確認する。	５	○　本時の感想を発表させ，次時につなげるようにする。

４　関連する教科等
・　社会科　「わたしたちの国土」（４月～５月）
・　理　科　「台風と天気の変化」（９月）　「流れる水のはたらき」（１０月）

５　資料
・　ワークシート（別紙）　　・　森林の写真
・　資料（グラフｐ１０４面積の変化　ｐ１１０森林資源の量の変化）

社会科「わたしたちの生活と森林」ワークシート

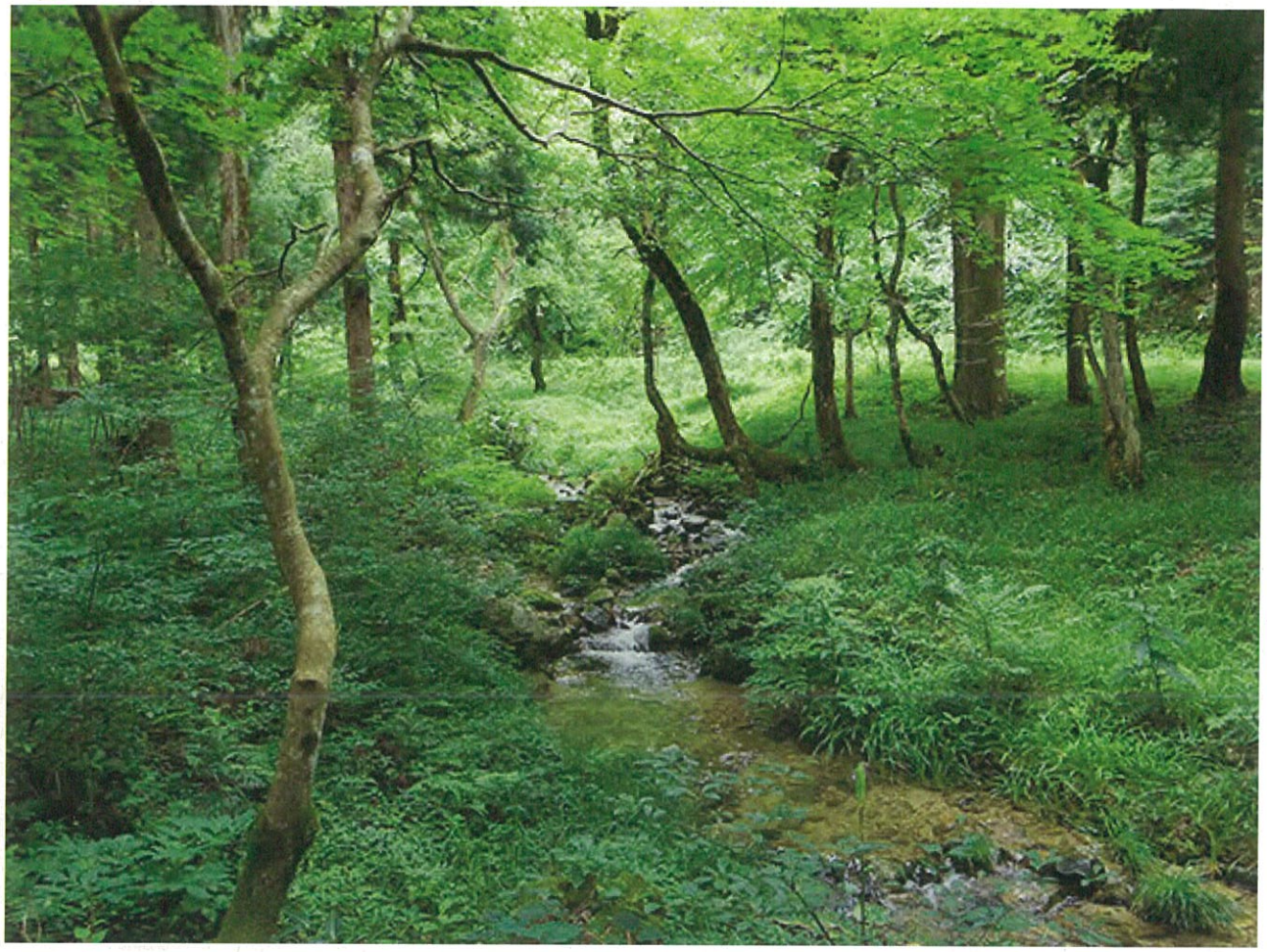
名前

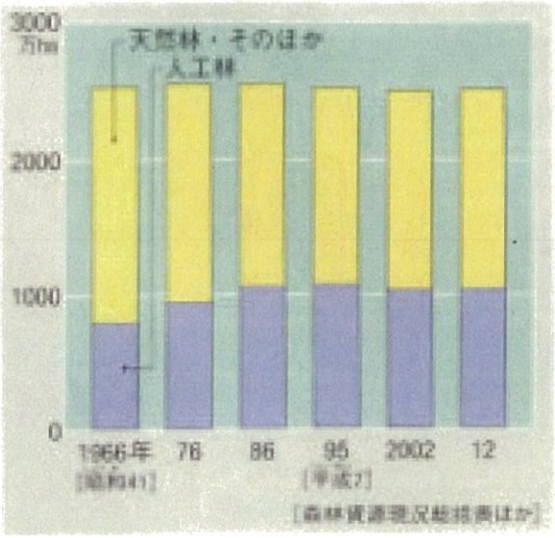
1．　森林にはどんな働きがあるか、自分の毎日の生活の中から考えよう。

2．　２つのグラフから面積と量の変化の様子を読み取り、そのわけを考えよう。

3．　森林を守り育てるには、どんなことができるか考えよう。

4．　学習をふりかえり、感想を書きましょう。





3 天然林と人工林の面積の変化

「守ろうわたしたちの森林」

小学校

1　単元名　私たちの生活と森林の役割を知ろう　【総合的な学習＜第５学年＞】

2　単元のねらい
○　森林の機能やダムの役割を調べることをとおして、我が国の森林資源の働きについて理解し、自然保護の大切さに気づくことができる。

3　関連教科
○社会科「私たちの生活と森林」

4　指導計画（６時間）
（１）森林の働きについて調べる。（１時間）
（２）川の生き物と水質調査（２時間）
（３）身近にある森林の「緑のダム」としての機能やダムの役割について理解する。（２時間）本時
（４）森林の働きやダムの役割について、見学してきたことをまとめる。（１時間）

5　本時のねらい
身近にある森林の資源としての働きや機能について理解するとともに、ダムの役割について調べることをとおして、自然環境保護の考えを深めることができる。

6　活動の流れ

段階	学習活動・内容	指導上の留意点・支援　■評価
つかむ(15) 深める(60) まとめる(15)	1　学習課題を確認をする。 ダムの役割や森林の働きを調べよう。 2　三春ダム内部を見学し、その働きや役割ついて調べる。 3　森の案内人の説明を聞く。 4　本時の学習を振り返る。	○活動内容や場所の特徴を確認し、注意を促すとともに､児童の思考が課題に向かうように働きかける。 ○三春ダムの水は、自分たちの町を流れる大滝根川や支流の川が集まって流れていることに気づき、意欲的に追究活動ができるようにする。 ○水の汚れの原因が私たちの生活排水であることを知り、川の水質調査や生き物調査をした体験から、自分たちにできることを考えさせる。 ○ダムの役割について説明を聞き、ダムが洪水を防ぎ水道水や田畑に使われる水を溜める役割があることに気付かせる。(発表、ワークシート) ○森の案内人から森林の現状を聞き、自分たちの生活との関わりから課題を捉えられるようにする。 ○森林は「緑のダム」として国土や水資源の保全、動植物の多くの命を守り育んでいることに気づかせる。 ○本時の学習を振り返り、森林と水とのかかわりを進んで考えていけるよう意欲を喚起する。 ■森林を守ることは、自分たちの生活と多くの動植物の命を守ることにつながることが分かったか｡(発表、ノート)

総合：森林学習「森林で学ぼう」

自然の中で生きる動植物たちの秘密を探る

小野町立小野新町小学校　第５学年

【関連教科】理科，国語，社会，総合的な学習の時間

【学習のねらい】

1. 森林のはたらきについて理解することができる。
2. 校地内や近くの塩竈神社周辺，福島県西郷村の散策・観察を通して，動植物の生態や人間の生活とのかかわりを知り，環境保全の大切さに気づくことができる。

【学習活動計画】 全８時間

1. 講師の説明を聞きながら校地や学校近くの神社周辺の散策・観察を行う。・・・・・・１時間
2. 散策・観察をして学んだことを図や文章で表現し，学習内容をまとめる。・・・・・・１時間
3. 宿泊学習の活動の中で，ガイドの方の話を聞き，剣桂ハイキングを通して動植物の観察をする。・・・・・・・・・・・５時間
4. 宿泊学習終了後，ハイキングで学んだことを文章で表現し，学習内容をまとめる。・・１時間

【学習活動例】 ２時目

1. 学習テーマ
   森林で学ぼう　～自然の中で生きる動植物たちの秘密を探る～

2. ねらい
   校地内や近くの塩竈神社周辺の散策・観察を通して，動植物の生態や人間の生活とのかかわりを知り，環境保全の大切さに気づくことができる。

3. 主な学習活動
   （１）講師の話を聞いたり講師に質問したりしながら，学校周辺の森を散策する。
   （２）実際に植物を触ったり，においをかいだりしながら観察をする。
   （３）森林と人間の生活のかかわりについて考える。

4. 成果
   ○身近な自然の観察だったが，子どもたちが知らない動植物の観察ができ，森林に興味をもつ児童が多くなった。
   ○観察したり，実際に触ったりするなど体験学習を通して，自然に関する児童の知識が以前よりも多くなった。
   ○専門的な知識をもった講師の話を聞きながら学習ができ，児童の意欲関心が高まった。

【作成資料】学級通信の裏面に，学習内容を記載し，保護者への周知を図った。（別紙資料）

学習のあゆみコーナー

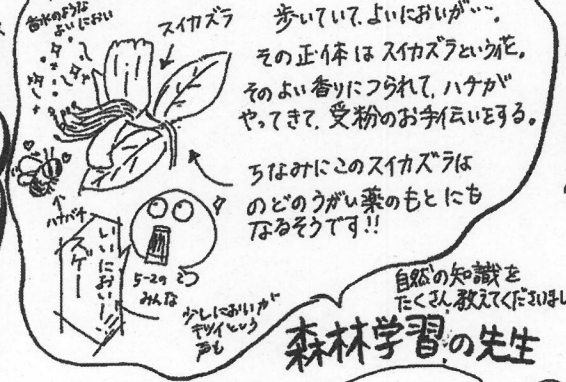
森林学習報告

6月13日(火) 4校時
学習場所：塩竈神社

先週行われた森林学習の様子をまとめてみました。
おどろきとワクワクの45分間となりました。こんなことを教えていただきました!!

見つけた木の実・実のこと

見つけたふしぎな花!!



歩いていて、よいにおいが…。
その正体はスイカズラという花。
そのよい香りにつられて、ハチがやってきて、受粉のお手伝いをする。

ちなみにこのスイカズラは
のどのうがい薬のもとにもなるそうです!!

見つけた植物

森林学習の先生

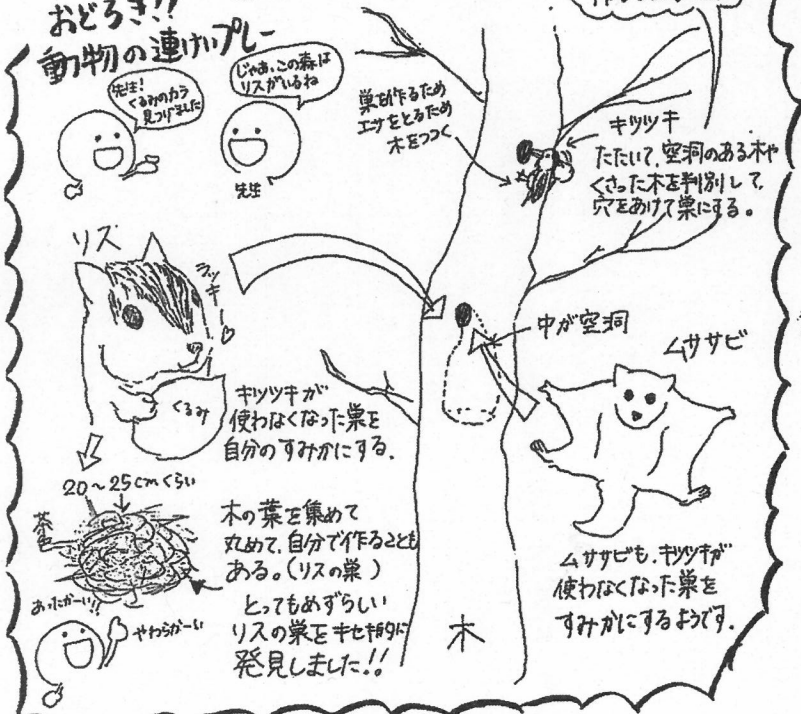
自然の知識をたくさん教えてくださいました。

5の2のみなさまの「質問」に答えながら、たくさん教えてくださいました。

ビックリ!! クモのなぞ

なるほど木の役目!!

おどろき!! 動物の連けいプレー



～担任のひとりごと～

5の2のみなさんと共に、私自身も初めての発見をたくさんしました。毎日通っていた道なのに、通りすぎてしまっていました。自然の中には、たくさんの知恵と工夫がかくれていて、そして成り立つ世界があることにおどろきました。何も考えずに歩けば10分くらいの道のり(きょり)ですが、興味と知識で見つめて歩くと45分では足りないくらい楽しい時間でした。「クモの子をちらす」のことわざを、自分の目で見たおどろきは本当に忘れられません。(当分は一見にがず)
「新しい知識に出会う(学び)」って本当に楽しいことだと感じました。今後の授業でも「学ぶ楽しさ」を大切にすごしていきたいと改めて思った1時間でした。

No.11

理科「流れる水のはたらき」

指導者　　担任　[redacted]
Ｔ２　学習支援ボランティア　[redacted]　先生
Ｔ３　教育支援学生スタッフ　３名

1　参加児童　　５年　１５名
2　単元名　「流れる水のはたらき」
3　ねらい　川の上流と中流の様子の違いや流れる水の働き（浸食・運搬・堆積）によってできた地形を観察し、知識と結びつけることができる。
4　準備物　筆記用具・探検バッグ・記録用紙・デジタルカメラ（班長）・水とう・防寒具
はんかち・ちり紙・かさ・カッパ・救急バッグ
5　指導（活動）計画（兼　行程表）　（総時数　５時間）

日時	場所	学習内容・活動	○指導上の留意点　※評価
９／１６ ９：００	自然の家　発		○出発前に健康観察・トイレ・酔い止め薬の確認 ○バスの中で行程・地理などについて補足説明する
９：２０	大黒屋　着	○[redacted]先生のお話を聞き、阿武隈川の源流について知る。	○グループごとにまとまって行動・メモ記録など ○出発前、トイレ確認 ○バスの中で、[redacted]先生から補足説明していただく ※阿武隈川の源流ついて知ることができたか
１０：２０	〃　発		
１１：００	塔のへつり　着	○　川岸の様子について説明を聞き、川の浸食の仕組みを理解する。	
１２：００	〃　発		
１２：２０	大川ふるさと公園　着	○（昼食　休憩）	○公園の使い方について指導 ○児童の安全確認 ○荒天時はふるさと公園コミュニティセンター施設借用
１３：００	〃　発		
１３：１０	大川　着	○　川の中流のようすについて説明を聞く。	※　同じ那須山から流れる川が、一方は太平洋へ、もう一方は日本海へ流れることを理解することができたか。
１４：００	大川　発		
１４：４０	自然の家　着		○バスの中で、[redacted]先生から補足説明していただく ○必要に応じて、道の駅でトイレ休憩

※　甲子温泉大黒屋　０２４８－３６－２３０１
※　大川ふるさと公園コミュニティセンター　０２４１－６７－２９０５

【森林保全体験学習】

森の観察会・間伐体験・木工クラフト

いわき市立夏井小学校

［関連教科］

理科・社会・総合学習

1　夏井川の環境「水と森の関係を調べよう」

2　本時のねらい

○　豊かな夏井川の水資源は、森の環境保全に支えられていることを理解する。

○　森の観察や間伐体験、木工クラフトを通じて、未来の自然環境保護について、自分たちができることを考える。

3　活動の流れ

学習内容	時間（分）	分担	○教師の支援　※評価
1　これまでの学習内容を想起し、本時のねらいをつかむ。 森の大切さに気付き、環境保護のためにできることを考えよう。	２０	担任	○　移動中のバスの中で、これまでの学習をふり返り、森と水の関係や、環境保護の大切さに気付かせる。 ※　既習事項をもとに、本時のねらいをつかんでいるか。（観察）
2　森の観察会に参加する。 ・　ＧＴの案内で、湯の岳山荘内の森を観察する。 ・　環境の連鎖によって多くの動植物が生息、生長していることを知る。 ・　森の環境は、人為的に保護され、水質や動植物の生息・生長に影響を及ぼしていること知る。	８０	講師	○　木や植物の種類、動物や昆虫の生息状況を調査・観察する。 ○　グループごとに、気づきや疑問をワークシートにまとめながら活動を進めさせる。 ※　人為的な森の環境保護によって水質が保全されたり、動植物が生息・生長したりしていることが理解できたか。 （観察・ワークシート）
3　間伐体験をする。 ・　体験を通じて、森の環境を守る際の苦労や、従事している人々の願いを実感する。	８０	講師	○　のこぎりを使って実際に間伐作業を体験する。 ○　作業時における感想を出し合いながら活動を進め、苦労や思いを実感させる。
4　木工クラフトづくりをする。 ・　森の恵みを活用し、思い思いの工作活動をする。	６０	講師	○　木の実や枝葉を用いて、思い思いの作品を制作する。 ※　友達と関わり合いながら、楽しく作品制作に取り組んでいるか。（観察）
5　森の恩恵についてふり返り、豊かな自然を保護するために自分たちができることを考える。	２０	担任	○　移動中のバスの中で、学習をふり返り、森の環境保護の大切さについて理解し、自分たちができることについての考えや意見をまとめる。

森林環境学習指導案

対象学年：５，６年生
教 科 名：行事
場　　所：校庭南側森林等
指 導 者：５，６年担任・森林組合から４名のＧＴ

１　単元名　　森林環境学習（きのこ植菌）

２　本時のねらい

本時では、きのこの栽培方法である原木栽培を実施し、実際のきのこの植菌作業を行いながら、林業と食料という関連について考察していく。また、伐採された木がどのように利用されているかを知るとともに、その後の山野の利用や林業について関心を持たせる。

３　学習過程

学習活動・内容	時間	● 指導上の支援
１　問題を知る。 ・GT の紹介 ①　原木栽培の方法を知り、きのこと栽培と林業の関係が深いことを知る。	５分	●これまでの学習を振り返り、きのこ栽培と林業について想起させる。なお、６学年は昨年度も実施しているので、児童に説明させたい。
きのこの植菌を通して、林業と食糧生産について考えよう		
２　課題をとらえる。 ㋮きのこの植菌をしよう	５分	●本時のめあてを確認し、実際の作業を通してきのこ植菌や林業の他、勤労体験や地元産業を知りながら、キャリア教育や郷土学習にもつなげていきたい。
３　作業をする。 ①　作業手順を知る。 ・GT から作業手順を聞く。 ②　安全に注意して作業する。 ③　作業を通して感じたことを話し合う。	２７分	●安全面に注意して作業させる。全児童が体験できるよう、事前に原木などの準備、作業台、ドリルの準備を行う。 ●原木にシイタケ菌を植え付ける。仮伏せまで行う。 ●シイタケの原木栽培には、木材を生産する林業が欠かせないことに気づかせたい。
５　まとめる。 ㋩シイタケ栽培にも木材は重要な役割を果たしている。	５分	●GT にあいさつをしながら、作業を通して学習したことを全員で振り返させる。
６　次時の連絡をきく。	３分	●次時は、間伐体験を行うことを予告する。

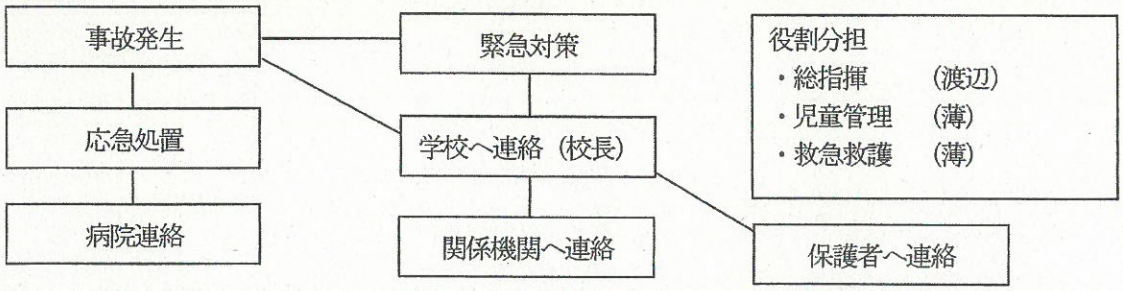
校長	教頭	教務	引率者 職 氏名	教　諭　渡辺　大志 教　諭　薄　陽太 支援員　渡部　美紀子

平成29年度『明和発見タイム』(総合・生活)実施計画

学　年	第５・６学年	５学年　男　６名　女１０名　計　１６名 ６学年　男　３名　女　６名　計　９名　計　２５名	不参加児童	なし
実施期日	平成２９年　６月２７日（火）　（　８：２０　～　１５：４０　）　雨天決行			
目　的	(1)　児童の心身の発達に応じて、地域の美しい自然や文化に触れさせることによって、情操を豊かにし、より多くの体験と見聞を広める。 (2)　集団行動を通して、規律の必要性や大切さを感じとらせ、道徳的実践力を伸ばす。			
目的地	只見考古館・ブナと川のミュージアム・河井継之助記念館			
交通手段	バ　ス　　※　緊急車両１台（薄）			
経　費	粘土代（１人２５０円）は学級費より　　入館料は減免申請を提出			
行　程	学校発（８：３０）→只見考古館着（８：４０）→土器作り体験（８：４０～１１：５０） 昼食・只見考古館前でお弁当（１１：５０～１２：３０）→只見考古館発（１２：４０）→ ブナと川のミュージアム着（１３：００）→館内見学※ガイド有（１３:００～１３:５０）→ ブナと川のミュージアム発（１３：５０）→河井継之助記念館着（１４：１０）→館内見学 ※ガイド有（１４:１０～１５:００）→河井継之助記念館発（１５:００）→学校着（１５：４０）			
準備物	〈教師〉救急バック、携帯電話、カメラ			
持ち物	〈児童〉リュックサック、タオル、飲み物（水かお茶）、しおり、筆記用具、お弁当、探検バック			

	事　前	実　施　中	事　後
指導計画	1　活動の目的や目的地、活動内容、約束事を理解させる。 2　安全指導を徹底する。 (1)バスの乗降、車内での過ごし方 (2)見学の仕方 3　体調管理・健康観察を行い、体調を整えさせる。 4　集団行動のきまりを指導する。	1　事前指導の内容を活動中にも指導する。 (1)あいさつ (2)バスの乗降、車内での過ごし方 (3)集団行動のきまり 2　自然や文化に触れ、豊かな体験と見聞を広める。 (1)只見の文化に親しむ。 (2)担当の方の話を聞く。	1　一人一人に振り返りをさせる。 2　心に残ったことを絵や作文に表現させる。 3　活動で体験したことを学校生活や他教科に生かせるようにする。

故発生時の連絡体制



連絡先　明和小学校　０２４１－８６－２２１６

備考	不参加児童の取扱い　不参加者なし 緊急車両１台

きのこ栽培活動

南会津町立南郷小学校

平成２９年６月２０日（火）

５・６校時

1　単元名　「きのこ栽培活動」

2　関連教科等

○総合５，６年

3　学習のねらい

○地域のよさを生かした体験的学習を通して、ものを大切にしたり、食に対する関心を高めたりする。

4　講師

○地域の方１名

5　活動の流れ

□　講師の方より活動内容の説明を聞く。

□　植菌活動を行う。

□　本時の学習を振り返り、気づいたことや感想を発表する。

6　実施場所

○南郷小学校　校舎裏

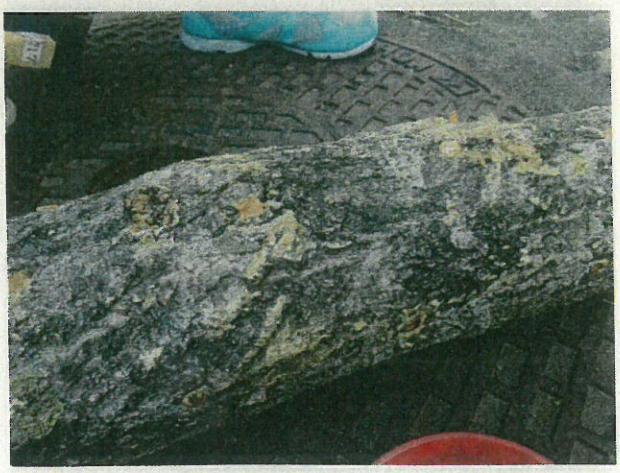
7　準備物

○玄翁２０本程度　○お椀１０個程度　○軍手

○駒菌　○きのこ原木

○　講師の方より駒菌の打ち方の説明を聞いた。

○　玄翁で原木に駒菌を自分達で打つ体験をした。



先人の育ててきた自然環境

裏磐梯の自然環境に学ぶ（学習指導案）

授業実践例 第５学年　　総合学習：教科発展型（５年社会科、６年社会科）

1　単元名　　ふくしまの環境を守る

2　単元のねらい

・裏磐梯の自然散策を通して、自然環境の恵みを体感することができる。
・観光地として人が訪れる程の自然環境を作り育ててきた先人の功績について知り、人間にとって自然は不可欠なものであることを理解することができる。

3　指導計画・学習内容（総時数６時間）

<table>
<tr><th>次</th><th>時</th><th>学習活動</th></tr>
<tr><td>Ⅰ</td><td>1
2</td><td>環境教育副読本「ふくしまのかんきよう」をもとに、自然環境について話し合う。
スライドを見ながら森林環境、森林資源、自然の美しさについて学ぶ。
人々が作り育ててきた森林について知り、裏磐梯散策学習の計画を立てる。
<table>
<tr><th>学習内容</th><th>時間</th><th>指導上の留意点</th></tr>
<tr><td>1　めあてを知る
ふくしまの自然環境から環境の大切さを学ぼう</td><td>5</td><td>・県より配付されている「環境副読本」を活用することで、身近な環境について学習するという意識を高めさせたい。</td></tr>
<tr><td>2　副読本を参考に、ふくしまの環境について話し合う。</td><td>20</td><td></td></tr>
<tr><td>3　スライドを見ながら、森林資源の有用性や環境との関わり、森林環境がもたらしてくれる美しさや恵みについて知識を豊かにする。</td><td>40</td><td>・自作資料を活用する。
・木材資源や水環境の関わり、生物等を紹介することで、森林環境を大きく捉えさせ、森林の大切さを理解させたい。</td></tr>
<tr><td>4　見学学習のしおりをもとに裏磐梯散策の計画を理解する。
・散策コース
（五色沼トレッキング）
・植林による森林の再生
・遠藤　現夢の功績</td><td>20</td><td>・「裏磐梯緑化の父」とよばれる遠藤現夢の功績についての具体的な数値や逸話を紹介することで、学習の目的を強く意識させたい。</td></tr>
<tr><td>5　本時の学習を振り返り、学習感想を発表する。</td><td>5</td><td></td></tr>
</table>
</td></tr>
<tr><td>Ⅱ</td><td>3
4
5
6</td><td>裏磐梯ビジターセンターからスタートし、毘沙門沼を経由する五色沼トレッキングを行う。檜原湖を帰着点とする。安全には十分に留意させる。
・磐梯山の噴火によって湖沼群ができたこと。
・遠藤　現夢らを中心とした先人達が、裏磐梯の森林の再生に尽力したこと。
（遠藤　現夢の墓碑）
檜原湖では、遊覧船から磐梯山や周囲の森林環境を観察する。また、檜原湖は、磐梯山の噴火で生じた堰止湖であるが、森林環境と相まって豊かな自然森林環境の一助にもなっていることを理解する。</td></tr>
</table>

森林環境学習のしおり

５年１組　　番

玉川村立玉川第一小学校

5年生森林環境学習について

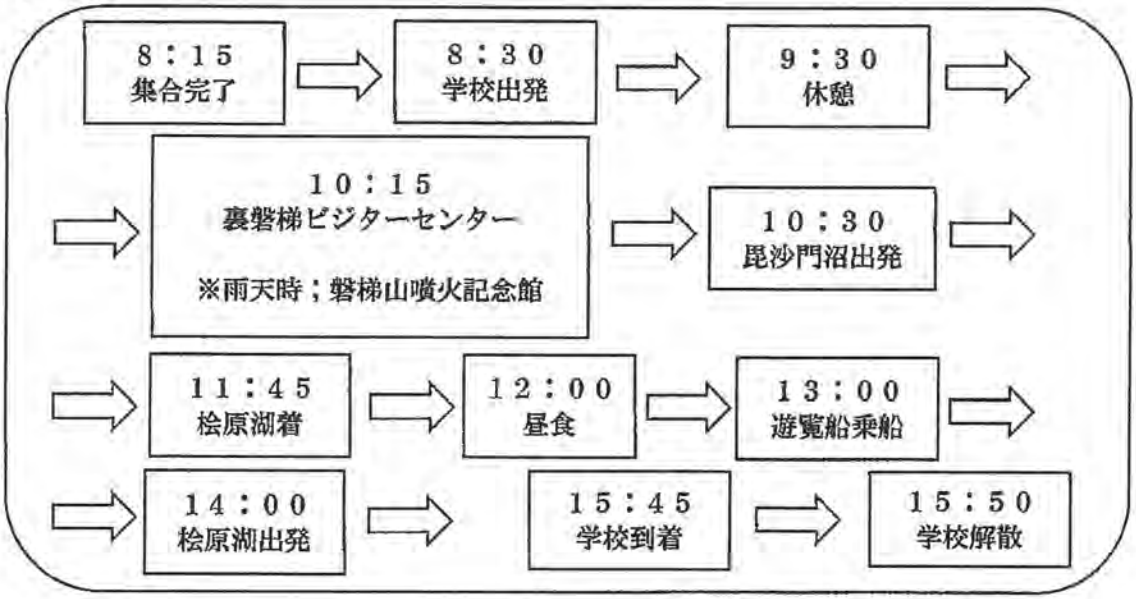
1　目的
・見学や体験活動を通して、森林が環境保全に果たす役割について理解する。
・森林が人間にもたらす恵みについて理解する。
・校外での学習活動を通して、社会性を身につけるとともに、見聞を広げる。

2　学習目的地
裏磐梯・猪苗代方面（主活動；五色沼トレッキング）
※　磐梯山噴火記念館（雨天時）

3　実施学年
第５学年

4　日時
平成２９年　９月２６日（火）８：３０～１５：５０　　※雨天実施

5　日程



6　引率の先生
眞野目　先生
安　齋　先生

7　服装・持ち物
○動きやすい私服、紅白帽子、履きなれた靴、リュックのように背負えるバッグ
○昼食　○敷物　○水筒（飲み物）　○しおり　○ハンカチ　○タオル
○おやつ（食べきれる分を考えて）　○ビニール袋（ごみ袋として）
○カメラも大丈夫ですが、自己管理となります。

8　その他
○スクールバスでの運行時間内で実施します。

裏磐梯の歴史について調べてみよう

会津と米沢を結ぶ会津街道。裏磐梯がある北塩原村には、この会津街道が通っています。戦国時代には大きな戦があったところだそうです。

さて、この裏磐梯は、福島県北部にある磐梯山、安達太良山、吾妻山に囲まれた標高約（８００）mにあります。明治２１年（１８８８年）に会津磐梯山が噴火して生まれたのが磐梯高原です。磐梯朝日国立公園に指定されている裏磐梯は、夏は涼しく、冬は雪がたくさんふり、季節ごとに魅力がたくさんあります。日本でも有数の観光スポットといえるところです。

明治２１年７月１５日、会津磐梯山の噴火によって裏磐梯が生まれました。山頂部分での噴火は、十数回に及び、最後の噴火で山体が崩壊したそうです。大量の岩石や土砂などがふもとに流れ、巨大な高原大地が出現しました。また、それまでの川がせき止められ、今回遊覧船が航行する桧原湖ができたり、くぼ地に水がたまり、今回トレッキングをする湖沼群が生まれたりしたそうです。

今でこそ一大観光スポットの裏磐梯ですが、今のような魅力あるところにするまでには、多くの人の力と時間がかかったということを忘れてはなりません。特に、『裏磐梯緑化の父とよばれる（遠藤　現夢（遠藤　十次郎））を忘れてはなりません。彼は、１８６４年の生まれです。時代でいえば江戸時代です。この頃、日本は時代が変わる大きな時で、彼が幼少期会津で大きな戦がありました。一面の焼野原の記憶が裏磐梯の緑化に駆り立てたとも言われています。彼と多くの福島県民との心血を注いだ努力があったからこそ今の裏磐梯があるといっても過言ではありません。実は彼の墓碑と噴火で亡くなった犠牲者の慰霊碑が五色沼（柳沼）のほとりに残されています。

彼の熱意は、ただならぬものがあったようです。２０世紀初めは、幹線道路が開通しだしたばかりで、物資の運搬が大変だったようです。１０万本を超える苗木を運び、植林につぐ植林を進めました。噴火の爪痕が残る中での活動だったので、道路を造りながらで前進は困難を極めたようです。植林に関する知識は、中村　弥六の協力を得て、苗木の生長を見守っていたようです。

今回行く裏磐梯は、自然が作り出した湖沼群の美しさと、人々が知恵と力を出して作ってきた森林の美しさとの両方を兼ね備えています。今回、事前にこのようなことを知っておくことは、森林環境学習をする上でとても大切だと考えます。この見学学習を通して、人々の環境に対する熱い思いや自然への畏敬の念を抱いてくれたら最高の時間となることでしょう。

平成２９年度森林環境学習指導計画

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

学習内容	指導上の留意点
1　秋の森やそこでの遊びについての経験を発表しどんな遊びをするか話し合う。	○経験を出し合わせ、季節の移り変わりにも気づかせる。
2 秋や夏との違いについて調べる。	○同じ森林で撮った写真を準備しておく。
3　森林で遊んだり散策したりする。	○楽しく遊ぶためのルールを確認させる。
4　遊んで楽しかったことや散策して気づいたことを発表する。	○全体で感想の交流をし自然に触れる喜びを共感できるようにする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

学習内容	指導上の留意点
1　森林が無いと困ることを話し合う。	○今までの学習を図や写真で振りかえさせる。
2　森林荒廃の現状を森の案内人から聞く。	○酸性雨や虫食い、手入れされていない森林の写真から現状を見つめさせる。
3　森林を守っていくためにはどうすればよいか話し合う。	○自分たちにできることを中心に考えさせる。
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

学習内容	指導上の留意点
1　森林の生物が自然環境にどのように関わって生きているか話し合う。	○これまで理科で学習した内容を振りかえさせる。
2　実際に観察をする。	○落ち葉の下などにも注目させる。
3　森林環境を守る取り組みについて知る。	○動植物の保護や樹木の植林・間伐などについて理解が深められるようにする
4　森林に慣れ親しむ	○安全に留意しツリークライミングを体験させる。

平成２８年度森林環境学習実践資料

小野町立浮金小学校

1　実施学年　１～６年

2　教科・単元名・ねらい

１・２年　生活科　　単元名「森へ行こう」
ねらい　進んで自然とふれあうことで自然のよさを感じ取ろうとする。

３・４年　社会科・総合　単元名「森林と共に生きる」
ねらい　森林の役割を知るとともに森林を生かした生活について考える。

５・６年　理科・総合　　単元名「森林と自然環境」
ねらい　生物と森林環境との関わりについての見方や考え方をやしなう。

3　実施時期　平成２８年１１月８日（火）

4　学習の実際

３・４年の学習の様子

①森林の役割について学習し、森林を健全に維持する方法について理解が深まった。

１２年生の学習の様子

②森を散策し季節が変わったことに気づき秋の遊びについて考えることができた。

５・６年生の学習の様子

③森林の生物が自然環境とどのように関わって生きているか実際に観察することができた。

木登り体験の様子

④実際にツリークライミングを体験し森林が持つ自然の壮大さを肌で感じ取ることができた。

第６学年　総合的な学習の時間指導案

平成３０年１月２７日（月）予定
１０：２０～１２：００
図工室
T1：荒木基良　T2：GT 児山文彦

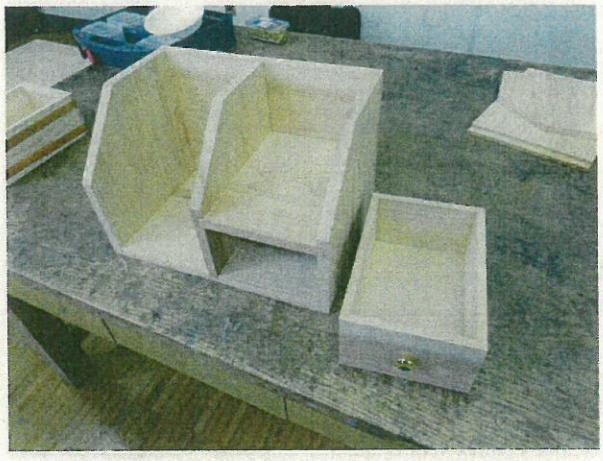
1　単元名　　本立てドリームプラン（卒業制作）

2　本時のねらい
　学区にある製材所のゲストティーチャーから、身近な木材を活用した本立て作りを学ぶとともに、身近な木々から生まれた木材や加工の仕方について関心をもつことができる。

3　指導過程（本時１・２／４時間）

学習内容	時間	教師の支援　＊評価	
		授業者	G T
1　ゲストティーチャーと出会い、本時のめあてをつかむ。 木材から自分の本立てを作ってみよう。	5	○GTを紹介し、地域の木材を使った本立て作りについて制作意欲を高めることができるようにする。	
2　本立てを組み立てる。	９０		
（１）材料や道具の説明を受ける。		○手順について理解することができるようアドバイスする。	○どういった板材であるかやどのような道具を使用するか、また完成形について説明し、完成イメージを持つことができるようにする。
（２）アドバイスを受けながら組み立てる。		○友だちと協力して板をそろえたり木ねじを打ったりすることができるように、声をかける。特にインパクトドライバーの扱い方に注意するよう見回る。	○組み立てのポイントや木ねじを打つインパクトドライバーの扱い方を丁寧に説明する。
3　本時を振り返る。	5	○完成した作品を前に、板材作品の手触りや質感のよさに着目できるよう声かけをする。	○板材のよさや大事に本立てを使ってほしい思いを伝える。

【昨年度の例】



森林にくらす

間伐材を生かす

間伐材を使ってプランターや小物を作る

第６学年（磐梯第一小学校）

関連教科等　理科６年　社会科６年　図画工作科６年　総合的な学習６年

学習のねらい

保護者と児童が共に間伐材を使って小物（椅子）を作製したり，児童が町内公共施設等へさし上げるプランターづくりをしたりする活動を通して，森林と木材の役割について考える。

授業計画　６月：２時間（９０分）

【小物（椅子）づくり】４５分　・間伐材についての説明と作業の流れを知る。（１０分）
・親子木工活動。（３０分）
・体験活動の振り返りを発表する。（５分）

【プランターづくり】４５分　・作業の流れを知る。（１０分）
・制作活動。（３０分）
・木材や森林（間伐材利用）についての感想や考えを発表する。（５分）

学習活動

【親子木工活動】

木で作るって
楽しい。

木でできているもの
たくさんあるよね。

木材はぼくたちの生活にかかせないもの。

総合的な学習の時間学習指導案

小学校

授業実践例　第３～６学年

１　単元名　雄国沼の自然について学習しよう【総合的な学習の時間（２時間)】

２　本時のねらい

○　雄国沼の自然を散策する活動を通して、秋の自然の変化に目を向けるとともに、自然を守る活動について学ぶことができる。

３　活動の流れ

学　習　内　容・活　動	時間(分)	教　師　の　支　援　※評価
１　めあてを確かめる 雄国沼の自然の様子を観察しよう ・活動内容や注意事項について聞く	１０	○　活動内容や場所の特徴、触れてはいけない植物等や安全な活動のための留意点等について指導する。 事前に編制した異学年グループでの活動とする。
２　グループで探勝路を歩き、自然の様子を観察する ・季節の自然の様子について、写真に記録する。	６５	○　児童の自主的な活動のため、後方から児童の活動を見守り、必要に応じて支援を行う。 ○　自分たちが見つけたお気に入りの自然の様子や、季節の特徴的な植物等を写真で記録させる。 撮影した写真は、学校に戻ってからプリントし、全校生が見られる場所に掲示することにより、自然への興味関心を高める。
・植物や自然事象についての問題に答える。		○　自然への関心や観察意欲を高めるために、チェックポイントの教師が雄国沼や自然に関する問題を出題し、正解にポイントを与える。 ※　教師の問題に意欲をもって取り組むことができたか。
３　自分たちが見つけた季節の自然の様子や特徴について発表する。 ・グループ内での発見について発表する。	１５	○　自分たちが歩きながら見つけた自然の姿や特徴を発表させる。 ※　自然や季節の特徴に気付くことができたか。

雄国沼散策実施案

喜多方市立第三小学校

1　ねらい

○　自然にふれあう活動を通して、自然のよさやそれらと親しく関わることの大切さや楽しさを味わうとともに、自然環境について考える機会とする。

2　期　日

○　平成２９年６月２７日（火）　雨天順延（６月３０日）
　　下見：６月１６日（金）短縮５校時（児童下校 13:40）

3　場　所

○　雄国沼

4　参加学年・引率者

○　４～６年生（計４６名）

○　引率者　　校長　４年担任　５年担任　６年担任　　養護教諭　担任外
　　活動担当　　１・２班　　４年担任、担任外
　　３・４班　　５年担任、養護教諭
　　５・６・７班　　６年担任、校長

5　日　程

○　学校発 ――― 雄国萩平駐車場着 ――― シャトルバス ――― 雄国沼金沢峠着
　　9:00　市バス　9:25 ＊トイレ　9:50　10:15

　　開会式 ═══ 雄国沼木道 ═══ 雄国沼散策 ═══ 昼食（休憩舎）
　　10:20 ＊写真　徒歩　10:30~　10:30 ～ 11:30　11:30 ～ 12:00 ＊写真

　　雄国山登山 ═══ 閉会式（雄国沼金沢峠）
　　12:00 ～ 13:00　13:10

○　雄国沼金沢峠発 ―― シャトルバス ―― 雄国萩平駐車場 ―― 市バス 14:10
　　13：25　13:50 ＊トイレ

　　学校着　（下校）
　　14:35　14:50

※5月頃に運行が決まるので、そこでシャトルバスの運行、児童の乗車等を連絡する。
（会津乗り合いバス）

※開会式の後、散策班ごとに写真撮影。昼食後、休憩舎の前で全体集合写真。
※活動は、松の子班で行う。
※午後の活動は雄国山登山を行う。
※バスには、6年生から乗車。雄国沼へは１・２班から出発する。

6　持ち物

○　児童　　お弁当、水筒、敷物、雨具（合羽）、リュックサック、運動着上下、紅白帽子、軍手、タオル、上着、熊鈴、おしぼり、虫よけ
　　ウエットティシュー（トイレ用））

○　教師　　連絡用携帯電話、救急用品、トイレットペーパー、デジカメ、トイレ代

村内自然教室

江竜田の滝探検

１　単元名　　「村内自然教室」
２　本日のねらい
（１）地域の自然に触れることを通して，地域理解を深めさせる。
（２）異学年児童とのふれあいを通して，協調の態度を育成する。
３　学年　　全学年
４　教科名　　２年：生活科３時間　，３・５・６年：総合的な学習３時間
５　活動の流れ

時刻	学　習　内　容	教師の支援　　※評価
8:50	１　出発式を行う。 ・はじめの言葉 ・校長先生のお話と講師紹介 ・めあての発表 ・係の先生のお話 ・終わりの言葉	○自然教室の意義を十分知らせ，学習の目標を確認する。 ○服装や持ち物，探検の際のルールについて確認し，安全に探検ができるようにする。
9:00	２　バスで移動する。	○村バスの利用。
9:20	３　講師の方の説明を聞く。 ・江竜田の滝って何？ ・地図でコースの確認	○コースに入る前に，トイレは全員済ませておく。
	４　講師の方の説明を聞きながら，コースを歩く。 ・滝の名前とそのいわれ ・流れる水の行方 ・動植物の観察や解説 	○二見ヶ滝，そうめんの滝，虹ヶ滝，青葉の滝と順に進んでいく。 ○蛇などの危険な生き物には十分注意するよう注意喚起させる。（忌避剤活用） ○江竜田地区には，久慈川と渡瀬川の２つの水系が存在していることを知らせ江竜田の滝で合流し，久慈川，那珂川を経て太平洋にそそいでいることを確認する。 ○危険な場所には行かないよう，常に複数の教師で児童の様子確認する。 ○途中 15 分間の休憩をとる。 ※決まりを守り，他の学年と協力しながら安全に探検している。（観察）
11:20	５　バスで学校へ移動する。	
11:40	６　帰校式を行う ・はじめの言葉 ・感想発表 ・お礼の言葉 ・終わりの言葉	○村バスの利用。 ○探検の振り返りを行い，活動の反省をする。
11:50	７　学習のまとめをする。 ・鮫川村の良さについて考える。	※美しい自然が豊かな鮫川村の良さに気づくことができた。（ワークシート・発言）
12:00	終了	

森林環境学習「自然に親しもう」

金山町立横田小学校

1　単元名　自然に親しもう（木工作）～森の生きもの～

生活科（１．２年生）　総合的な学習の時間（３～６年生）

2　本時のねらい

木切れや枝から、作りたい「森の生きもの」を作ることで樹木や森林に関心を持たせる。

3　授業について

全校生で会津自然の家を利用して山野を歩きまわる活動をした後、木切れや枝を加工して「森の生きもの」を作る学習を行った。山野の材料を使って木工作することで、より身近に樹木や森林を感じ、関心を持たせることを意図した。

3　学習活動

（１）材料を確かめ、作りたい生きものを決める。

（２）材料と作り方についての説明を聞く。

・用具や材料を確かめる。

・のこぎり、小刀、ホットボンド使用時の注意事項を説明する。

（３）森の生きものを作る。

①のこぎりを使って木切れや枝から部品を作る。

②部品などを組み合わせて、ホットボンドや速乾性ボンドで接着する。

③動眼などの付属品をつけて完成させる。

（４）使用した会場の掃除と整理整とんをする。

①用具や残った材料をもとの場所に返却する。

②使用した会場の掃除と整理整とんをする。

（５）作品を紹介し、感想を発表する。

第８回全校しおて活動

総合的な学習の時間係

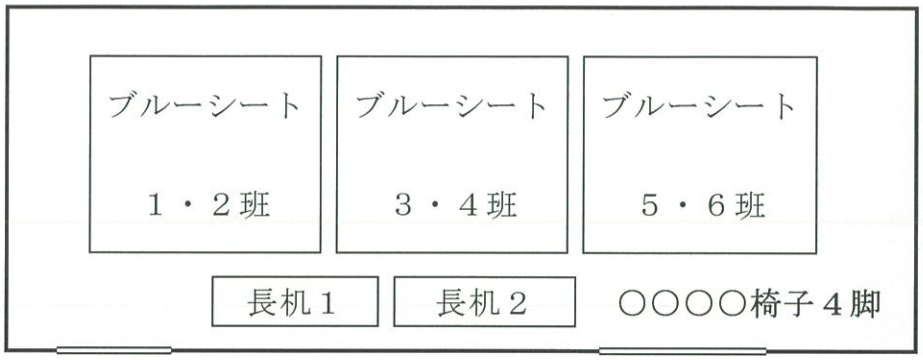
１　ねらい

○　縦割り班で主体的に活動することによって，自分の責任を果たし，互いに協力しようとする態度を育てる。

○　森林資源を有効活用した木工クラフトを通じて，身近にある森林や木を感じる心，尊重できる心の醸成を図る。

２　日時　　平成２９年　９月２１日（木）　３～４校時（総合２）

３　場所　　体育館



４　学年　　全学年

５　教科名　　総合的な学習の時間・生活科

６　単元名　　木工教室

７　内容　（１）開会式　１０：２５～　校長先生のお話と講師紹介
森林組合職員の方からのお話（森林の話，作業の説明）
（２）活　動　１０：３５～　班ごとに多用途ボックスの製作
（３）片付け　１１：４０～　片付け，班ごとに感想発表
（４）閉会式　１１：５０～　森林組合の方からのお話
お礼のことば（６年児童）

８　準備物

○　班長・・・筆記用具（マイネーム）

（イメージ図）

☆　業間の間に，事前のブルーシート準備を，６年生にお願いします。

☆　使用したブルーシートは，**各班ごとに協力してたたみ**，６年生が**３年教室前の棚**に片付けてください。４，５年生は体育館のモップがけをお願いします。

第８回全校しおて活動「木工教室」

平成２９年度　**環境整備教育計画**　**猪苗代町立猪苗代小学校**

環境教育部

１．ねらい

（１）　環境の大切さと美化について関心を持ち、自分たちの学校を美しくしていこうという気持ちを持つ。

（２）　植物の生長や変化、季節による生き物の違いを体験し、環境を大切にすることを実践する場とする。

２．実践内容

（１）ボランティア活動（水曜日朝の活動）

・配当された花壇の整美　　・校庭等のゴミ拾い　　・その他　学年の計画による美化活動

（２）教科、総合的な学習の時間

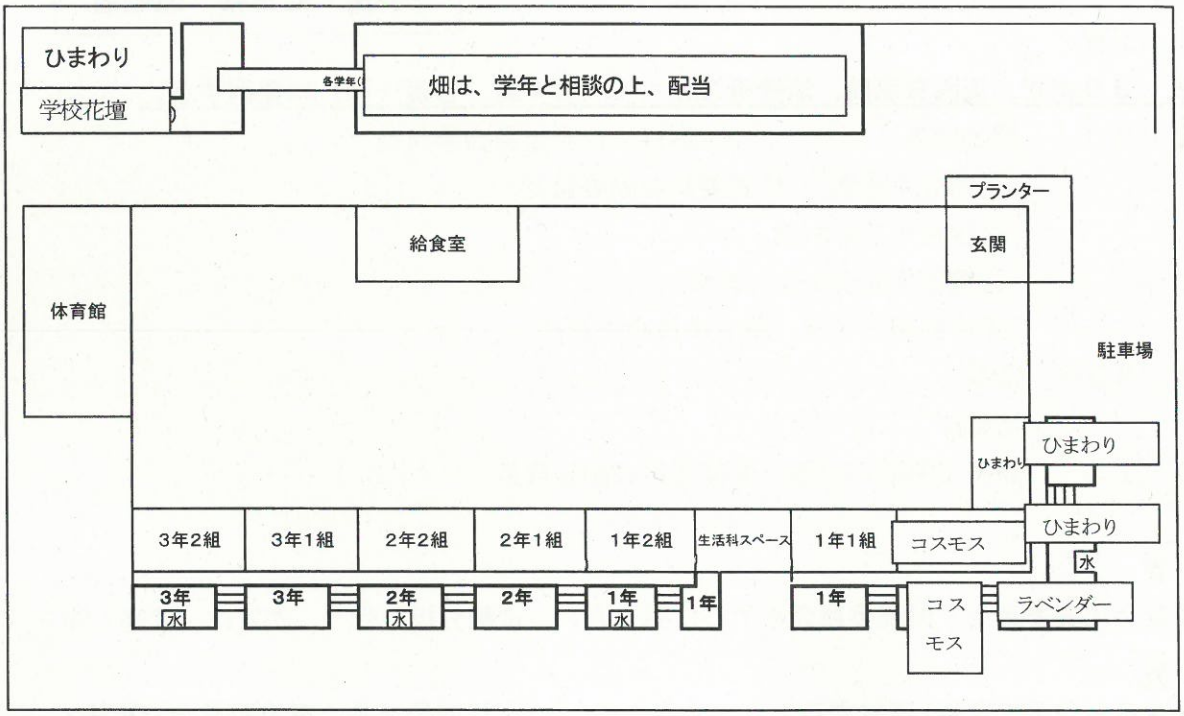
・理科、生活科等における栽培活動　　・総合的な学習の時間等における活動

（３）緑の少年団活動（環境委員会）

・年間でどのような活動をしていくのか４月中に計画をし、緑の少年団が中心になって活動を進めていく。

（例：花壇やプランター整備など）

３．花壇配当について



４．年間計画

月	緑化活動	月	緑化活動
4	花壇・畑の配当　花壇の土作り　花の栽培	10	除草　栽培活動
5	花壇に花苗を植える　畑を耕す ↓	11	花壇、畑の整理　球根などの定植
6	除草　栽培活動	12	球根などの栽培
7	除草	1	
8	除草	2	
9	除草 ↓	3	↓

５．その他

- 配当された花壇は、各学年の計画にそって花の苗を植え、栽培する。
- 各学年が行う教科等での栽培活動は、畑かプランターを利用して行う。
- 畑は、使用する学年が年度初めに相談の上、配当をする。
- 地域・保護者などの協力を得て、計画的に行う。

猪苗代町立猪苗代小学校

H２９．７．２０　教務

平成２９年度　クリーン活動実施案

１　ねらい

（１）学校や地域を進んできれいにし、ふるさとの環境を守ろうとする心情を育てる。

（２）クリーン活動を通して、みんなのために働くことの喜びを味わわせる。

（３）全校児童が一つの目的に向かって活動することにより、協力することの大切さを理解する。

２　期　日　　平成２９年９月１日（金）　１校時　（学校行事１時間）

※　雨天延期（９月５日（火）１校時）

※服装
手袋・紅白帽・運動着

３　当日の日程

８：３０まで、正面玄関前、清掃班ごと（１～２４班　各班一列）に整列する。

８：３０　開会行事　　進行　代表委員会委員長（　　）

①開会の言葉　（代表委員会副委員長　　）

②校長先生のお話

③担当の先生から（野崎）

④活動開始宣言（環境委員会委員長　　）

８：３５～　活動

活動終了、後片付け

９：１５　放送で閉会の言葉（環境委員会副委員長　　）

４　内　容

○　児童会代表委員会と環境委員会を中心に話し合い、役割分担を行う。内容は、校庭の除草活動。

○　児童自らの手で企画・運営するようにするため、今後、代表委員会と環境委員会で相談・計画をし、全校生に提案する。また、当日の準備や運営も両委員会で行う。

５　その他

○　学年ごとに事前指導を十分に行い、目的を理解させるとともに、方法等も連絡しておく。

○　６年生（各班１本程度）には草削りの道具を持たせる。

※　代表委員、環境委員は、当日８：１５までバケツ、草削りを準備する。

尾瀬檜枝岐森林環境学習

・対　象　　檜枝岐村小学校１～６年生
・教　科　　理科、社会、総合
・単元名　　檜枝岐村の森林について
・学習のねらい

尾瀬国立公園と当村の河川を利用した森林環境学習を行うことにより、尾瀬の自然の豊かさや森林の成り立ち及び森林生態系について学び、参加者に森林の大切さを感じてもらい、森林環境学習の中で炊事体験も実施することにより、森林の中での楽しかった思い出が子供たちを将来村にＵターンさせるきっかけとなり、今最も問題となっている少子高齢化等への解決にも繋がることを目標とする。

自然だけでなく生物も含めた森林生態系についても学習するため、檜枝岐川へイワナを放流させ、実際の体験を通して豊かな自然や森林を保全していく大切さや重要性を学習する。

①「尾瀬の自然水」ができるまで（１０分）

・檜枝岐村で販売している「尾瀬の自然水」を参加者に配布し、この水が尾瀬国立公園の広大な原生林の一枝一葉のしずくを集め、幾重ものフィルターをくぐり抜けて作られていることを説明し、おいしい水ができるには森林が必要だということを気付かせたい。（雨天のためバスの中）

②自然散策（２時間）

・尾瀬植物手帳を配布し、ガイド案内のもと、尾瀬国立公園内を散策する。森林の成り立ちや森林生態系について学び、湿原のニホンジカ被害等も見学することにより、森林の大切さを感じさせたい。

・尾瀬ブナの森ミュージアムにて、尾瀬国立公園の全景、文化や歴史等について理解を深めさせたい。

③イワナの放流（３０分）

・檜枝岐村の代表的な魚であるイワナを放流することにより、生物を含めた森林生態系についても学習し、森林を保全していく大切さや重要性を気付かせたい。

④炊事体験（３０分）

・森林の中で子供たちが食事を作り、実施した環境学習について語らいながら皆で食事をすることにより、今回の環境学習が楽しかった思い出となり、子供たちを将来村にUターンさせるきっけとしたい。

1 行事名　「三世代交流ふれあいフェスタ」（学校行事、全学年）
～小野町緑とのふれあいの森公園にて～

2 ねらい
○ 自然体験活動を通して、自然のすばらしさを感じるとともに、自然を守ろうとする気持ちを持つことができる。
○ 友だちと協力し合いながら、発達段階に応じた諸活動に取り組むことにより、協力することのすばらしさに気づくことができる。
○ 森林環境学習に堪能な外部講師や地域の方々に教えていただくことを通して、新たな経験を積み、その技を習得しようと努力することができる。
○ 地域のおじいちゃん・おばあちゃん方とのふれあいを通して、先人の苦労や知恵を再確認するとともに、敬う気持ちを持つことができる。

3 参加者　全児童、保護者、地域のおじいちゃん・おばあちゃん方、外部講師、教員

4 活動の流れ

活　動　内　容	時間	○教師の支援及び願い
1 森でパンを焼こう （1）第一段階の準備をする。 ・低学年：竹にアルミ箔を巻こう ・中学年：パン生地をこねよう ・高学年：薪を割ろう	90 (30)	○ 全ての活動において、児童・保護者・地域のおじいちゃん・おばあちゃん方・外部講師の方々によるグループを編成し、全員が活動できるようにする。 ○ 焚き火によるパン焼き体験を行うことにより、登山や災害時の食糧確保の手段を体験させる。
（2）第二段階の準備をする。 ・低・中学年：竹にパン生地を巻こう ・高学年：竈に火をおこそう	(30)	○ 児童の発達段階に応じた活動分担を行い、どの児童も活躍できる場を設定する。 ○ 外部講師やおじいちゃん・おばあちゃん方に見本を見せていただいたり、教えていただいたりすることを通して、技能の向上を図るとともに、交流が深められるようにする。
（3）パンを焼く。	(30)	○ 三世代が混在したグループでパン焼き体験を行うことにより、交流を深められるようにする。
2 自然を楽しもう ・下学年：ワイヤーロープスライダー遊び ・上学年：木登り体験	60	○ 発達段階に応じた森林活動を体験することにより、自然に親しむことができるようにする。 ○ 下学年は、木と木の間に張ったワイヤーロープを使った遊びを通して、自然の中での活動を楽しむことができるようにする。 ○ 上学年は、外部講師等に教えていただきながら木登り体験を行うことにより、自然の中での活動を楽しむとともに、木に登る経験を積むことができるようにする。 ○ おじいちゃん方から遊びの中で行っていた木登りの話を聞くことにより、昔の遊びについて知るとともに、交流を深めることができるようにする。
3 縁日の雰囲気を体験しよう ・焼きそばコーナー ・唐揚げコーナー ・射的コーナー	60	○ 保護者や地域の方々が準備してくださった焼きそばや唐揚げ、射的コーナーで、食事をとったり、楽しんだりすることを通して、お祭りの雰囲気を楽しんだり、触れ合ったりする。
4 自然をきれいにしよう ・三世代クリーン作戦	30	○ 楽しく活動した場所をきれいにする活動を通して、自然を大切にする気持ちに気づけるようにする。

5 活動の実際

（1）森でパンを焼こう

竹にアルミ箔を巻く様子

パン生地をこね、切り分けている様子

薪割りの様子

焚き火でパンを焼いている様子

（2）自然を楽しもう

ワイヤーロープスライダーを楽しむ様子

木登り体験の様子

森林学習

金山町立金山小学校

１．目標

（１）森林の持つ様々な役割（水源涵養，災害防止，地球温暖化防止等）と林業についての学習を通して，森林への理解を深めると共に森林を守り育てようとする心情を育てる。

（２）間伐材の有効な利用や森林のリサイクルに関心を持ち，進んでそれらに関わり，働こうとする意欲を持たせる。

２．方針

（１）各教科及び総合的な学習の時間に位置づけ，全校児童が関わることができるようにする。

（２）町の地域振興課とも連携を図りながら実施する。

３．内容

学　年	時期	教　科	内　　容
１・２年	１０月	生活科	「もっとなかよし　まちたんけん」 ※大竹製材所見学と木工体験
３・４年	１２月	図工科	「ギコギコクリエーター」
５・６年	２月	図工科	「ドリームプラン」 ※木工体験